



TITLE:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績（2011年4月1日～2012年3月31日）

AUTHOR(S):

---

CITATION:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績（2011年4月1日～2012年3月31日）. 京都大学高等教育研究 2012, 18: 179-218

ISSUE DATE:

2012-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169729>

RIGHT:

# 高等教育研究開発推進センター日誌

(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

年 月 日	記 事
2011. 4. 1	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 23 年度第 1 回）
4. 4	文学研究科プレ FD プロジェクト事前研修会
4.13	高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 23 年度第 1 回）
4.20	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 23 年度第 1 回）
4.27	関西地区 FD 連絡協議会第 5 回幹事会
5.11	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 23 年度第 2 回）
5.21	<p>関西地区 FD 連絡協議会 第 4 回総会  場所：百周年時計台記念館  開会挨拶：池田 勝彦（関西大学）  議事：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 23 年度活動報告について</li> <li>2. 平成 23 年度活動方針について</li> <li>3. 平成 23 年度決算について</li> <li>4. 平成 23 年度予算について</li> <li>5. 次期幹事校の選出について</li> <li>6. その他</li> </ol> <p>ポスターセッション「FD 活動の報告会 2011」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>01 関西大学 三浦 真琴（教育推進部） 『三者協働型アクティブ・ラーニングの展開』</li> <li>02 大阪府立大学 星野 聡孝（高等教育開発センター） 『ICT を活用した教育・学習支援アクションプランの策定』</li> <li>03 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 長谷川 岳史（大学教育開発センター） 『「自己応募研究プロジェクト」「指定研究プロジェクト」について』</li> <li>04 京都大学 半澤 礼之 （高等教育研究開発推進センター・FD 研究検討委員会 WG2） 『京都大学のプレ FD 2010』</li> <li>05 阪南大学 花川 典子（経営情報学部） 『阪南大学コピペ検索システム—教育の質の向上のために—』</li> <li>06 大阪大学 山成 数明・服部 憲児（大学教育実践センター） 『大学教育実践センターの多様な FD 活動の取り組み』</li> <li>07 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部</li> </ol>

- 澤田 治美・岡澤 潤次・並松 善秋・森田 健宏 (FD 委員会)  
『教員の相互授業参観による相互支援型 FD 体制の構築』
- 08 京都外国語大学・京都外国語大学短期大学部  
村上 正行 (マルチメディア教育研究センター・FD 特別委員会)  
『京都外国語大学における有機的な連携を目指した FD』
- 09 大阪成蹊大学 柴沼 真 (マネジメント学部)  
『入学前教育の成果について—大阪成蹊大学マネジメント学部の試み—』
- 10 四天王寺大学 八木 成和 (教育学部 教育学科・FD 専門部会委員)  
『学生アンケートを利用した授業改善の取り組み』
- 11 滋賀県立大学 倉茂 好匡 (教育実践支援室)  
『滋賀県立大学の「授業の基本」研修会』
- 12 京都精華大学 森下 育彦 (共通教育センター)  
『「日本語リテラシー」という取り組み』
- 活動報告
1. 「初任教員向けプログラム (愛称: カンジュニ) とは」  
半澤 礼之 (京都大学高等教育研究開発推進センター)
  2. 「コピペ検索システム—教育の質の向上のために—」  
花川 典子 (阪南大学経営情報学部企業情報研究科)
  3. 「学生アンケートの実施方法について」  
八木 成和 (四天王寺大学教育学部准教授・FD 専門部会委員)
- 閉会挨拶: 田中 每実 (京都大学高等教育研究開発推進センター)  
情報交換会
- 5.24 教授 赤松 紀彦 蘇州大学にて蘇州崑曲博物館所蔵崑曲台本の閲覧・調査及び蘇州劇伝習所創立 90 周年シンポジウム司会・参加のため中国へ海外出張 (5.30 帰国)
- 5.30 FD 研究検討委員会 (第 11 回)
- 5.31 特定准教授 及川 恵 7th International Congress of Cognitive Psychotherapy に参加及び資料収集のためトルコへ海外出張 (6.6 帰国)
6. 8 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 23 年度第 3 回)
- 6.10 平成 23 年度第 1 回 MOST 講習会  
MOST、KEEP Toolkit の概要紹介  
事例紹介—公開授業・検討会、授業改善  
操作説明—スナップショット、コミュニティ  
実際の操作 (参加者の操作体験、質疑応答)
- 6.22 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 23 年度第 2 回)
- 6.30 サイエンスコミュニケータープロジェクト: オリエンテーション  
平成 23 年度科学研究費補助金・基盤研究 (B) 継続  
「ポスト近代社会における〈新しい能力〉概念とその形成・評価に関する研究」  
研究代表者: 松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授

研究分担者：石井 英真 神戸松蔭女子学院大学人間科学部講師  
 伊藤実歩子 甲南女子大学人間科学部准教授  
 遠藤 貴広 福井大学教育地域科学部准教授  
 杉原 真晃 山形大学基盤教育院准教授  
 樋口 太郎 大阪経済大学経済学部准教授  
 樋口とみ子 京都教育大学教育学部准教授  
 松下 良平 金沢大学人間社会研究域学校教育系教授

平成 23 年度科学研究費補助金・基盤研究 (B) 新規

「コースポートフォリオを活用した大学カリキュラムの質保証モデルの構築」

研究代表者：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授  
 研究分担者：田中 每実 高等教育研究開発推進センター教授  
 松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授  
 吉田 文 早稲田大学教育・総合科学学術院教授  
 平山 朋子 藍野大学医療保健学部准教授  
 村上 正行 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授  
 酒井 博之 高等教育研究開発推進センター特定准教授  
 稲葉利江子 情報学研究科情報教育推進センター特定講師

平成 23 年度科学研究費補助金・基盤研究 (B) 継続

「総合研究大学における英語学術論文作成技能の育成に向けた全学共通教育のコース設計」

研究代表者：田地野 彰 高等教育研究開発推進センター教授  
 研究分担者：寺内 一 高千穂大学商学部教授  
 飯島 優雅 獨協大学経済学部准教授  
 高橋 幸 高等教育研究開発推進機構准教授  
 金丸 敏幸 大学院人間・環境学研究科助教

#### 7. 7 FD 研究検討委員会・第 4 回勉強会

#### 7. 8 サイエンス・コミュニケーター・プロジェクト事前研修会 2011

場所：吉田南 1 号館 1 階会議室

内容

1. 研修会開会の挨拶
2. 高等教育研究開発推進センター長・教授 田中 每実
3. 参加者の自己紹介
4. サイエンス・コミュニケーター事前アンケート
5. ミニ講義 1：「学校での立ち振る舞い：ビジネスマナーについて」  
学務部教務企画課 清水 克哉
6. ミニ講義 2：「授業方法の工夫：昨年度の出前授業の経験から」  
霊長類研究所 生体保全分野 教務補佐員 郷 もえ  
理学研究科 研究員 (グローバル COE) 岸田 拓士  
司会：高等教育研究開発推進センター 特定助教 半澤 礼之
7. 模擬授業のグループ分けと自己紹介、模擬授業にあたっての説明
8. グループ模擬授業
9. 各グループの報告

10. 全体のまとめと研修会閉会の挨拶  
 高等教育研究開発推進センター 教授 大塚 雄作  
 高等教育研究開発推進センター 特定准教授 及川 恵
- 7.12 FD 研究検討委員会公開授業・検討会  
 授業担当：稲葉利江子（情報学研究科情報教育推進センター・特定講師）  
 授業科目：全学共通科目 複数群科目（A・B 群）「情報と教育」
- 7.19 高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 23 年度第 2 回）
- 7.21 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 23 年度第 4 回）
- 7.21 准教授 スチュワート ティモシー ウィリアム 研究打ち合わせ及び資料収集のためカナダへ海外出張（Capilano University 及び Simon Fraser University／University of Windsor／York University）（8.19 帰国）
- 7.29 平成 23 年度学術研究助成基金助成金・基盤研究（C）新規  
 「若手 FD 担当者が抱く問題意識とキャリア展望」  
 研究代表者：大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授  
 研究分担者：杉原 真晃 山形大学基盤教育院准教授  
 村上 正行 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授  
 半澤 礼之 高等教育研究開発推進センター特定助教  
 平成 23 年度学術研究助成基金助成金・基盤研究（C）新規  
 「抑うつに対する予防的學生支援システム構築に関する臨床健康心理学的研究」  
 研究代表者：及川 恵 高等教育研究開発推進センター特定准教授  
 研究分担者：西河 正行 大妻女子大学人間関係学部教授  
 伊藤 拓 明治学院大学心理学部准教授  
 山蔦 圭輔 産業能率大学情報マネジメント学部准教授
8. 1 大学生研究フォーラム 2011  
 共催：高等教育研究開発推進センター・財団法人電通育英会  
 講演：「大学受験の今日的、社会的意義—大学に何を求めるか」  
 和田 秀樹（国際医療福祉大学大学院教授、精神科医）  
 昼食兼交流会  
 挨拶：田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター長）  
 松本 宏（財団法人電通育英会理事長）  
 シンポジウム  
 イントロダクション  
 ファシリテーター：中原 淳（東京大学大学総合教育研究センター准教授）  
 報告：「育てる教育力学と支援する教育力学の相補的關係」  
 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）  
 「大卒者の初期キャリアと大学の学びを媒介するもの」  
 下村 英雄（独立行政法人労働政策研究・研修機構副主任研究員）  
 コメント：豊田 義博（リクルートワークス研究所主任研究員）  
 浦坂 純子（同志社大学社会学部教授）

鳥居 朋子（立命館大学教育開発推進機構教授）  
 参加者ダイアログ  
 パネルディスカッション  
 小括：「大学生調査と教育実践との関係」を振り返る  
 中原 淳（東京大学大学総合教育研究センター准教授）  
 総括パネルディスカッション  
 吉見 俊哉（東京大学大学総合教育研究センター長）  
 川崎 友嗣（関西大学社会学部教授 キャリアデザイン担当主事）  
 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）  
 司会：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）  
 閉会挨拶：溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

8. 4 FD 研究検討委員会主催 関西地区 FD 連絡協議会共催  
 大学院生のための教育実践講座 2011 ―大学でどう教えるか―  
 場所：京都大学百周年時計台記念館  
 開会挨拶 淡路 敏之（京都大学理事）  
 趣旨とプログラム説明 大塚 雄作（高等教育研究開発推進センター教授）

#### 【BASIC】

セッション 1 グループ討論 1 「大学授業をどう思うか（自己紹介）」  
 セッション 2 ミニ講義 1 「大学授業の現在」  
 田口 真奈（高等教育研究開発推進センター准教授）  
 セッション 3 ランチと自由討論  
 セッション 4 グループ討論 2 「大学授業で教師に求められるもの」  
 セッション 5 ボディワーク 「他者とのつながり・自分とのつながり」  
 濱野 清志（京都文教大学教授）  
 セッション 6 ミニ講義 2 「大学授業におけるガイダンスの重要性」  
 小島 隆次（滋賀医科大学准教授）  
 グループ討論整理  
 セッション 7 全体討論 「大学で教えるために」  
 セッション 8 ミニ講義 3 「大学で教えるために」  
 田中 每実（高等教育研究開発推進センター長・教授）

#### 【ADVANCED】

セッション 1 全体討論 1 「教える側からみた大学授業（自己紹介）」  
 セッション 2 ランチと自由討論  
 セッション 3 模擬公開授業・検討会  
 セッション 4 グループ・全体討論 1  
 閉会式 挨拶・修了証授与 田中 每実（高等教育研究開発推進センター長・教授）  
 閉会式終了後 情報交換会

- 8.31 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 23 年度第 5 回）



9. 1 平成 23 年度 京都大学新任教員教育セミナー  
場所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール  
開会挨拶 松本 紘（京都大学総長）  
趣旨説明 田中 毎実（高等教育研究開発推進センター長・教授）  
司会進行 大塚 雄作（高等教育研究開発推進センター教授）
- セッション 1  
ミニ講義 1：「現代の大学教育の動向と京都大学のポリシー」  
淡路 敏之（教育担当理事）
- セッション 2  
ミニ講義 2：「京大生の学習と生活」  
溝上 慎一（高等教育研究開発推進センター准教授）
- セッション 3  
ミニ講義 3：「京大の教育的取組」  
全学共通教育（ポケゼミ） 少人数教育部会長 吉田 純  
K. U. PROFILE 国際交流推進機構長 森 純一  
文学研究科（プレ FD） 文学研究科准教授 出口 康夫  
京大の教育サポート・リソース  
高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代
- セッション 4  
ミニ講義 4：「私の授業」  
戸部 博（理学研究科教授）
- セッション 5  
グループ討論：「京大でどう教えるか」  
[事] … 事例紹介者、[77] … ファシリテーター
1. アクティブ・ラーニング型の授業をつくる  
[事] 学術情報メディアセンター教授 喜多 一  
[77] 高等教育研究開発推進センター准教授 田口 真奈
  2. 学力の低下、学生の多様化にどう対応するか？  
[事] 工学研究科准教授 須田 淳  
[77] 高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代
  3. 英語による授業をどう行うか？  
[事] 農学研究科教授 縄田 栄治  
[77] 高等教育研究開発推進センター特定助教 田川 千尋
  4. ソーシャル・メディアを使った双方向型授業  
[事] 経営管理研究部教授 若林 靖永  
[77] 高等教育研究開発推進センター特定准教授 酒井 博之
  5. 困難を抱えた学生に向き合うには？  
[事] カウンセリングセンター教授 青木 健次  
[77] 高等教育研究開発推進センター特定准教授 及川 恵
  6. 博士課程院生のキャリア形成支援  
[事] キャリアサポートセンター教授 梅田 幹雄  
[77] 高等教育研究開発推進センター特定助教 半澤 礼之
- セッション 6 ラップアップ  
閉会式 挨拶 田中 毎実（高等教育研究開発推進センター長・教授）

9. 3 近畿地区大学教育研究会第 80 回研究協議会

場所：京都大学医学部芝蘭会館稲盛ホール

I. 総会

会長挨拶 京都大学高等教育研究開発推進機構長 淡路敏之  
 当番大学挨拶 大阪大学理事・副学長 東島 清  
 会務報告 京都外国語大学教授 平山弓月  
 司会 大阪大学大学教育実践センター教育実践研究部長 山成数明

II. シンポジウム 「原点に立ち返っての教養教育」

1. 基調講演「教養論の反省」

講師 関西大学人間健康学部長・京都大学名誉教授 竹内 洋  
 司会 京都大学高等教育研究開発推進センター教授 吉田 純

2. パネル討論「大学の外から見た教養教育」

話題提供「教養教育とは何か～「大学の實力」調査から」

読売新聞記者 松本 美奈

話題提供「今！企業が求める人財とは」

公益財団法人三菱財団 常務理事 茂木義三郎

話題提供「科学教養プログラム構想から見た教養教育」

名城大学大学・学校づくり研究科教授 池田 輝政

司会 大阪大学大学教育実践センター長 工藤眞由美

9. 5～6 若手 FD 研究者ネットワーク (JFDN Jr.) 第 4 回合宿研究会

場所：京都外国語大学 132 教室 (1 号館 3 階)

9 月 5 日

セッション 1

本会合の趣旨について・ネットワーク代表挨拶

村上 正行 (京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授)

参加者による自己紹介

「FD との関わりと研究のバックグラウンド」

活動報告

半澤 礼之 (京都大学高等教育研究開発推進センター特定助教)

講演「FD 研究コミュニティの形成に向けて」

大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

セッション 2

討論 1 テーマ：「講演への感想、質疑応答」

・グループ内ワーク (30 分)

自己紹介

大塚先生の講演への感想、質問

・全体発表、質疑応答 (30 分)

セッション 3

討論 2 テーマ：「FD・SD：お悩み相談」

(FD・SD の『ここがうまくいっている・ここがうまくいっていない』)

・個人ワーク

・グループ内ワーク



- ・グループ間ワーク
- グループ再編成
- 元のグループで出た意見等を報告し合う
- 情報交換会
- 9月6日
- セッション4
- 討論3 テーマ：「ほんまでっか！？ FD」
- 「FD・SD：お悩み解決」
- (討論1・2で議論された課題について全体での意見交換を行う)
- セッション5
- 討論4 テーマ：「研究者としての専門性と組織における役割」
- ・個人ワーク
- ・グループワーク
- ・全体発表、討論
- セッション6
- 今後の活動計画について
- 杉原 真晃(山形大学教育開発連携支援センター准教授)
- ・今回の合宿の成果のまとめ
- ・科研にかかる内容のお知らせ
- 閉会の挨拶
- 村上 正行(京都外国語大学マルチメディア教育研究センター)
- 振り返りシート記入
- 9.5 教授 松下 佳代 ISCAR学会参加、発表及び情報収集のためイタリアへ海外出張(9.12 帰国)
- 9.9 平成23年度第2回 MOST 講習会
- MOST、KEEP Toolkit の概要紹介
- 事例紹介—コースポートフォリオ、授業改善
- 操作説明—スナップショット作成、コミュニティ
- 実際の操作(参加者の操作体験、質疑応答)
- 講習会終了
- 9.13 FD代表者ネットワーク(JFDN)平成23年度会合
- 場所：京都大学芝蘭会館 別館研修室
- 趣旨説明：大塚 雄作(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)
- I. FDネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と課題I
- 1. 田中 岳(九州大学教育改革企画支援室准教授)
- 「かたらしてえ Q-Links 2011」
- 2. 秦 敬治(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授)
- 「教職員能力開発拠点(愛媛大学教育企画室)と四国地区大学教職員能力開発ネットワークとの連携によるプログラム開発・実施体制の確立・強化」
- 3. 森 朋子(島根大学教育開発センター副センター長/准教授)
- 「山陰地区FD連絡協議会 2011 報告」

4. 安岡 高志 (立命館大学教育開発推進機構教授)  
「全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPFF) 概要について」
5. 大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)  
「相互研修型 FD 共同利用拠点この1年」
6. 細川 敏幸 (北海道大学高等教育推進機構教授)  
「北海道地区 FD・SD 推進協議会の活動」

昼食・フリーディスカッション

## II. FD ネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と課題 II

7. 石原 保志 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターセンター長／教授)  
「障害者高等教育拠点—聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを保障する教育支援ハブの構築—」
8. 林 久夫 (龍谷大学理工学部教授)  
「大学コンソーシアム京都の連携 FD 活動」
9. 夏目 達也 (名古屋大学高等教育研究センター教授)  
「名古屋大学 FD・SD 教育改善支援拠点の平成 23 年度活動方針」
10. 坪川 武弘 (福井工業高等専門学校教授)  
「福井県での FD 連携 4 年目の活動」
11. 松田 直正 (千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター特任助教)  
「看護学教育研究共同利用拠点看護実践研究指導センターにおける現状と課題・今後の展望」
12. 青野 透 (金沢大学大学教育開発・支援センター教授)  
「大学コンソーシアム石川 (UCI) FD・SD 活動の展開」
13. 小田 隆治 (山形大学高等教育研究企画センター教授)  
「FD ネットワーク “つばさ” の現在」
14. 関内 隆 (東北大学高等教育開発推進センター副センター長／教授)  
「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」
15. 佐藤 洋一 (岩手医科大学医学部教授)  
「いわて高等教育コンソーシアムにおける大学間連携 FD ネットワーク」

ディスカッション

コメント：高橋浩太郎 (文部科学省)

司会：大塚 雄作 (京都大学)

- |       |  |
|-------|--|
| 9.20  | 特定助教 田川 千尋 Paris Ouest Nanterres 大学 Centre de recherches にて CREF 所長 Marie=Françoise Fave=Bonne 氏と研究打合せおよび資料収集、Marne la Vallée 大学 OFFIPE にてデータ収集、Bourgogne 大学にて RESUP 学会 journée de jeunes chercheurs 参加及び発表、ナンシー大学にて教育学研究科 Saeed Paivandi 教授と共同研究打合せのためフランスへ海外出張 (9.24 帰国) |
| 9.22  | 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 23 年度第 6 回)   |
| 10.12 | 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 23 年度第 7 回)<br>高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 23 年度第 3 回)  |

- 10.14 平成 23 年度科学研究費補助金・研究活動スタート支援 新規  
「パーソナリティ特性と身体的・精神的・社会的健康に関する発達心理的研究」  
研究代表者：高橋 雄介 高等教育研究開発推進センター特定助教
- 10.19 2011 ISSOTL Conference 参加・研究発表  
参加者：松下 佳代教授、溝上 慎一准教授、酒井 博之特定准教授（10.25 帰国）  
高橋 雄介特定助教（引き続き現地で別用務）
- 10.24 特定助教 高橋雄介 イリノイ大学心理学部 Brent Roberts 教授、Patrik Hill 研究員と  
研究打ち合わせのためアメリカへ海外出張（10.29 帰国）
11. 1 FD 研究検討委員会公開授業・検討会  
授業担当：酒井 博之（高等教区研究開発推進センター特定准教授）  
授業科目：全学共通科目 複数群科目（A・B 群）「音響心理学概論」
11. 9 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 23 年度第 8 回）  
高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 23 年度第 4 回）  
高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 23 年度第 3 回）
- 11.13 教授 田地野 彰 ビクトリア大学ウェリントン校／オークランド大学会議場／オー  
クランド大学図書館に 응용言語学部博士課程 笹尾洋介氏との共同研究の打ち合わせ  
／TBLT 学会に参加、および研究発表／文献研究のためニュージーランドへ海外出張  
（11.25 帰国）
- 11.18 教授 赤松 紀彦 香港城市大学での招待講演、および中国伝統演劇に関する資料の収  
集と意見交換のため中国へ海外出張（11.25 帰国）
- 11.28 関西地区 FD 連絡協議会研究 WG FD デザイン研究 SG 公開研究会  
テーマ：『滋賀県立大学方式の「授業の基本」研修会と授業コンサルテーション』  
講師：滋賀県立大学 倉茂 好匡教授
- 11.30 サイエンスコミュニケータープロジェクト 2011：事後研修会  
場所：吉田南 1 号館  
プロジェクト実施概要報告：学務部教務企画課 清水 克哉  
若手研究者によるプロジェクト参加報告  
全体討論：「サイエンス・コミュニケーター・プロジェクト より良いものにするには」  
司会：高等教育研究開発推進センター特定助教 半澤 礼之  
高等教育研究開発推進センター教員からのコメント  
高等教育研究開発推進センター教授 大塚 雄作  
高等教育研究開発推進センターセンター長 田中 每実  
修了証明書授与  
高等教育研究開発推進センターセンター長 田中 每実
- 11.30 センター研究会  
報告者：フェレンス・マルトン（ヨーテボリ大学名誉教授）

12. 1 第 82 回公開研究会  
 題目：Deep Learning にもとづく大学教育のあり方  
 報告者：フェレンス・マルトン（ヨーテボリ大学名誉教授）  
 溝上 慎一（高等教育研究開発推進センター准教授）  
 松下 佳代（高等教育研究開発推進センター教授）
12. 2 工学部主催「第 7 回工学部教育シンポジウム」  
 場所：京都大学桂キャンパス・桂ホール  
 開会挨拶 工学部長 小森 悟  
 話題提供「最近の大学教育の動向について」  
 大塚 雄作・高橋 雄介（高等教育研究開発推進センター）  
 教育改善に向けて 私の授業—アンケート結果を受けて—  
 竹脇 出 教授（建築学科）  
 奥乃 博 教授（情報学科）  
 安部 武志 教授（工業化学科）  
 委員長報告 田中 庸裕（新工学部新工学教育プログラム実施専門委員会委員長）  
 ディスカッション
12. 7 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 23 年度第 9 回）
12. 8 FD 研究検討委員会・第 3 回勉強会  
 場所：吉田南 1 号館共 201 室
- 12.17 第 8 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント ワークショップ  
 「思考し表現する学生を育てるⅣ—ライティング指導の方法—」  
 場所：立命館大学以学館  
 開会挨拶 田中 毎実（関西地区 FD 連絡協議会 代表幹事校代表）  
 講演「『モジュール』に基づいたレポート、小論文の作成技法について」  
 小田中章浩（大阪市立大学文学研究科教授）  
 事例紹介「立命館大学における初年次日本語リテラシー科目の取組」  
 薄井 道正（立命館守山中学校・高等学校教諭／立命館大学非常勤講師）  
 グループワーク  
 テーマ 1：論文指導「十字モデルで協同的に論文を考える」  
 講師：牧野由香里（関西大学総合情報学部教授）  
 テーマ 2：作文法「科学的作文法入門」  
 講師：倉茂 好匡（滋賀県立大学環境科学部教授）  
 テーマ 3：コピー対策「阪南大学コピー検索システム」  
 講師：花川 典子（阪南大学経営情報学部教授）  
 全体討論 司会：安岡 高志（立命館大学教育開発推進機構教授）
- 12.22 教授 山本 行男 京都府立洛北高等学校附属中学校／「光る分子合成して観察しよう」、「平成 23 年度子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業（出前授業）」（京都府教育委員会）
2012. 1.11 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 23 年度第 10 回）

1.21	准教授 スチュワート ティモシー ウイリアム Imperial Queen's Park Hotel にて 学生への講演／プレコンファレンスのセッションに参加／TESOL 国際会議に参加／ Sarobol 准教授と、会議での発表内容についてディスカッションのためバンコクへ海外 出張 (1.30 帰国)
1.25～27	センター研究会合宿 講師：坂越 正樹 (広島大学理事) 招聘
1.27	教授 赤松 紀彦 日中比較演劇シンポジウムについての打ち合わせ、および中国伝統 演劇関係資料の閲覧のため中国へ海外出張 (2.1 帰国)
1.31	九州工業大学学習教育センター教職員 4 名訪問
2. 1	高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 23 年度第 5 回) 京都大学キャリアサポートセンター教職員および間藤徹理事補訪問
2. 9	センター研究会 報告者：Daniel Bernstein 氏 (カンザス大学、ISSOTL 次期会長)
2.12	第 83 回公開研究会『大学教育におけるコースポートフォリオの可能性 ー授業改善からカリキュラム改善へー』 場所：京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール 開会挨拶 田中 毎実 (京都大学高等教育研究開発推進センター長) 趣旨説明 田口 真奈 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授) 基調講演 ダニエル・バーンスタイン (カンザス大学、ISSOTL 次期会長) 「ティーチングにおける知的活動の表象：教授・学習を可視化する」 事例報告&ディスカッション 〈事例報告〉 「各報告の位置づけについて」 酒井 博之 (京都大学高等教育研究開発推進センター特定准教授) 「藍野大学におけるコースポートフォリオの実践報告」 平山 明子 (藍野大学医療保健学部准教授) 「大阪府立大学高専におけるコースポートフォリオ活用」 土井 智晴 (大阪府立大学工業高等専門学校総合システム学科准教授) 「カリキュラム・マップを活用した組織的カリキュラム改善」 小川 勤 (山口大学大学教育センター教授) 〈コメント〉 ティーチングポートフォリオの視点から 栗田佳代子 (大学評価・学位授与機構准教授) SOTL の視点から ダニエル・バーンスタイン ICT 利用の視点から 飯吉 透 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授) 閉会挨拶 大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

- 2.13 教授 飯吉 透  
EDUCAUSE ELI カンファレンスにて EDUCAUSE ELI 参加及び情報収集、MIT 教育イノベーション・テクノロジー局、MIT Teaching & Learning Lab、ハーバード大学にて国際研究連携ミーティング（2.22 帰国）
- 2.23 文学研究科プレ FD プロジェクト平成 23 年度後期公開研修会  
場所：京都大学吉田南 1 号館 共 201・206  
開会挨拶 田中 毎実（FD 研究検討委員会委員長）  
司会：田川 千尋（高等教育研究開発推進センター特定助教）  
自己紹介 参加者の自己紹介と公開講座を担当しての感想  
ビデオ視聴 講義ビデオの視聴  
講義の振り返り ワークシートとリフレクションを用いた講義の振り返り  
田口 真奈（高等教育研究開発推進センター准教授）  
学生の声の紹介  
受講生に対するインタビュー結果の紹介  
小城 拓理・田林 千尋・溝上 宏美（文学研究科教務補佐員）  
半澤 礼之（高等教育研究開発推進センター特定助教）  
ミニ講義  
松下 佳代（高等教育研究開発推進センター教授）  
グループディスカッション  
テーマ1：「学生の多様性にどのように対応するか」  
テーマ2：「学生をどう授業に巻き込むのか」  
テーマ3：「学びを促す授業デザイン」  
ミニミニ講義  
テーマ1：半澤 礼之（高等教育研究開発推進センター特定助教）  
テーマ2：田口 真奈（高等教育研究開発推進センター准教授）  
テーマ3：坂本 尚志（高等教育研究開発推進センター特定研究員）  
全体ディスカッション&まとめ  
司会：田口 真奈（高等教育研究開発推進センター准教授）  
閉会挨拶：佐藤 昭裕（文学研究科長・教授）  
修了証授与：田中 毎実（FD 研究検討委員会委員長）
- 2.24 FD 研究検討委員会（第 12 回）
- 2.28 高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 24 年度第 4 回）
3. 2 MOST 講習会  
趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明  
酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター特定准教授）  
MOST 操作説明  
参加者によるスナップショットの作成
3. 6 准教授 溝上 慎一 SRA 学会参加及び発表、情報収集のためカナダへ海外出張（3.12 帰国）
3. 7 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 23 年度第 6 回）



3.15～16

第 18 大学教育研究フォーラム

場所：京都大学吉田南 1 号館・総合館、百周年時計台記念館

開会の挨拶：松本 紘（京都大学総長）

基調講演「相互研修型 FD の総括」

田中 毎実（京都大学高等教育研究開発推進センター長・教授）

パネルディスカッション

パネリスト

山田 剛史（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授）

高橋 哲也（大阪府立大学高等教育推進機構教授／機構長・副学長）

夏目 達也（名古屋大学高等教育研究センター教授）

飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

樋口 聡（文部科学省高等教育局大学推進課大学改革推進室長）

大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

司会：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

小講演 1

山川 修（福井県立大学学術教養センター教授）

児美川孝一郎（法政大学キャリアデザイン学部教授）

西岡加奈恵（京都大学大学院教育学研究科准教授）

吉良 直（日本教育大学院大学学校教育研究所教授）

小講演 2

松浦 良充（慶應義塾大学文学部教授）

山本 泰（東京大学大学院総合文化研究科教授）

小方 直幸（東京大学大学院教育学研究科准教授）

塩川 雅美（学校法人上昇学園国際交流コーディネーター）

ラウンドテーブル 10 件

個人研究発表 10 部会 73 件

教育評価研究部会（1）（2）／カリキュラム研究部会（1）（2）（3）／授業研究部会（1）（2）（3）（4）（5）（6）（7）／FD・授業公開研究部会（1）（2）（3）／e-Learning・遠隔教育研究部会（1）／大学生・大学生生活研究部会（1）（2）（3）（4）

3.17 准教授 スチュワート ティモシー ウィリアム City University of New York にてアジアにおける英語指導や授業研究について Ke Xu 教授他と討論／ペンシルバニア・コンベンションセンターにて TESOL 国際会議に参加するためアメリカへ海外出張（4.2 帰国）

3.18 教授 田地野 彰 グラスゴー・国際会議場にて開催の国際英語教育学会（IATEFL）第 46 回国際大会に参加するためにスコットランドへ海外出張（3.26 帰国）

3.19 教授 松下 佳代、教授 飯吉 透、准教授 田口 真奈  
スタンフォード大学にて Office of VPGE 他、訪問調査・打ち合わせ、カーネギー教育振興財団にて上級研究員 Dr. Thomas Carey と研究打ち合わせ、スタンフォード大学にて Dr. Michele Marinovich と訪問調査・打ち合わせ他のためアメリカへ出張（3.24 帰国、教授 飯吉 透は引き続き現地で別用務）  
教授 飯吉 透  
ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学にて国際連携ミーティング（4.1 帰国）

## 高等教育研究開発推進センター組織

（2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日）

### 高等教育研究開発推進センター協議員：

田中 每実	センター長		
飯吉 透	センター教授（1 月～）	松下 佳代	センター教授
大塚 雄作	センター教授	吉田 純	センター教授
山本 行男	センター教授	赤松 紀彦	センター教授
田地野 彰	センター教授		
淡路 敏之	高等教育研究開発推進機構長		
鈴木 晶子	高等教育研究開発推進機構副機構長		
富田 恭彦	人間・環境学研究科長		
山極 壽一	大学院理学研究科長		
川添 信介	大学院文学研究科教授		
辻本 雅史	大学院教育学研究科長		
寺田 浩明	大学院法学研究科教授		
塩地 洋	大学院経済学研究科教授		
小西 靖彦	大学院医学研究科教授		
橋田 充	大学院薬学研究科教授		
伊藤紳三郎	大学院工学研究科教授		
宮川 恒	大学院農学研究科教授		
中村 佳正	大学院情報学研究科長		
中島 浩	学術情報メディアセンター長		

### 高等教育研究開発推進センター運営委員：

田中 每実	センター長		
飯吉 透	センター教授（1 月～）	松下 佳代	センター教授
大塚 雄作	センター教授	吉田 純	センター教授
山本 行男	センター教授	赤松 紀彦	センター教授
田地野 彰	センター教授		
田口 真奈	センター准教授	溝上 慎一	センター准教授
桂山 康司	センター准教授		
Dalsky David Jerome	センター准教授	Stewart Timothy William	センター准教授
酒井 博之	センター特定准教授	及川 恵	センター特定准教授（～9 月）
半澤 礼之	センター特定助教	田川 千尋	センター特定助教
高橋 雄介	センター特定助教	藤本 夕衣	センター特定助教

### 平成 23 年度学外研究協力者：

米谷 淳	神戸大学大学教育推進機構教授
山内 乾史	神戸大学大学教育推進機構准教授
吉田 雅章	和歌山大学経済学部准教授
神藤 貴昭	立命館大学経済学部准教授
吉田 文	早稲田大学教育学部教授

中原 淳	東京大学大学総合教育研究センター准教授
矢野 裕俊	武庫川女子大学文学部教育学科教授
荒木 光彦	松江工業高等専門学校校長
井下 理	慶應義塾大学総合政策学部教授
藤田 哲也	法政大学文学部教授
山田 礼子	同志社大学社会学部教授
村上 正行	京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
鈴木真理子	滋賀大学教育学部教授
杉原 真晃	山形大学基盤教育院准教授
山田 剛史	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授
小田 隆治	山形大学地域教育文化学部教授
絹川 正吉	新潟大学理事
夏目 達也	名古屋大学高等教育研究センター教授
本郷優紀子	桜美林大学・総合研究機構事務局長
尾澤 重知	早稲田大学人間科学学術院准教授
圓月 勝博	同志社大学文学部教授
沖 裕貴	立命館大学教育開発推進機構教授
林 創	岡山大学教育学部准教授
栗田佳代子	大学評価・学位授与機構評価研究部准教授
坂東 昌子	NPO 法人 知の人材ネットワーク・あいんしゅたいん理事長
下村 英雄	労働政策研究・研修機構キャリアガイダンス部門主任研究員

#### 平成 23 年度学内研究担当教員：

子安 増生	大学院教育学研究科教授
田中 耕治	大学院教育学研究科教授
高見 茂	大学院教育学研究科教授
杉本 均	大学院教育学研究科教授
楠見 孝	大学院教育学研究科教授
大山 泰宏	大学院教育学研究科准教授
土井 真一	大学院法学研究科教授
出口 康夫	大学院文学研究科准教授
永井 和	大学院文学研究科教授
福谷 茂	大学院文学研究科教授
宮川 恒	大学院農学研究科教授
田中 利幸	大学院情報学研究科教授
山本 裕	大学院情報学研究科教授
美濃 導彦	学術情報メディアセンター教授
喜多 一	学術情報メディアセンター教授

#### 平成 23 年度企画協力教員

大木 充	大学院人間・環境学研究科教授
丸橋 良雄	大学院人間・環境学研究科教授
酒井 敏	大学院人間・環境学研究科教授
西山 教行	大学院人間・環境学研究科准教授
日置 尋久	大学院人間・環境学研究科准教授
壇辻 正剛	学術情報メディアセンター教授

## 高等教育研究開発推進センター教員業績

（2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日）

※職名は 2011 年度現在

### 第一部門（高等教育教授システム研究開発部門）

#### 田中 每実（教授）

##### 1. 研究業績

###### 【著書】

- ・ Tsunemi TANAKA “The Status of Faculty Development in Japan: Addressing the Question of Mutual Training as a Paradigm of Faculty Development”. In: *Building networks in higher education: Towards the future of faculty development*. Edited by the Center for the Promotion of Excellence in Higher Education at Kyoto University Maruzen Planet Co., Ltd., Tokyo 2011.11
- ・ 田中每実 2011.12 『大学教育の臨床的研究—臨床の人間形成論第 1 部』 東信堂
- ・ 田中每実 2011.12 「非対称的相互性から対称的相互性へ—不幸を紡ぐ教育関係からの脱却のために」『幸福感を紡ぐ人間関係と教育』ナカニシヤ出版
- ・ 田中每実 2012.3 「大学教育学とは何か」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版, 1-24 頁

###### 【論文】

- ・ 田中每実 2011.5 「学問教育共同体」の現代的再編成について」（大学教育学会『大学教育学会誌』第 33 巻第 1 号

##### 2. 教育活動

###### 【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 B」（後期分担）
- ③大学院教育：「高等教育論演習 I A・B」（教育学研究科、前・後期）、「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科、前・後期、共同）

##### 3. その他の活動

###### 【学内委員】

- ・ 高等教育研究開発推進センター センター長
- ・ 京都大学教育研究評議会 評議員
- ・ 京都大学 FD 研究検討委員会 委員長

###### 【社会活動】

- ・ 関西地区 FD 連絡協議会代表幹事校・代表
- ・ 教育哲学会常任理事
- ・ 大学教育学会常任理事
- ・ 日本学術会議連携会員

## 大塚 雄作 (教授)

### 1. 研究業績

#### 【論文など】

- ・ Otsuka, Yusaku (2011). Formation of Faculty Development Community and the Role of Evaluation: Toward Substantiation of “Organizational Faculty Development” In Center for the Promotion of Excellence in Higher Education at Kyoto University & Kayo Matsushita (eds.) *Building Networks in Higher Education: Towards the future of faculty development*, 140-161. Maruzen Planet.
- ・ 大塚雄作・山田剛史 2012.3 「大学教育評価」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』, ナカニシヤ出版 165-216 頁.
- ・ 大塚雄作・夏目達也 2012. 教育担当副学長のリーダーシップに関する調査の基礎的分析——国立大学教育担当副学長質問紙調査から—— 名古屋高等教育研究, 12, 25-51. 名古屋大学高等教育研究センター

### 2. 教育活動

#### 【学内】

##### ①全学共通教育

- ・『教育評価の基礎』(後期)
- ・『ライフサイクルと教育 A』(前期; 松下佳代・井下理・大塚雄作)

##### ②学部教育

- ・『教育心理尺度開発演習』(前期)

##### ③大学院教育

- ・『高等教育開発論研究 A』(前期)
- ・『高等教育論演習 II A』(前期)
- ・『高等教育開発論研究 B』(後期)
- ・『高等教育論演習 II B』(後期)

#### 【学外】

- ・桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻(修士課程) 通信教育課程非常勤講師『高等教育研究調査法』
- ・早稲田大学教職大学院『学力調査・評価の方法と活用』(集中講義: 8/22~24)

### 3. その他の活動

#### 【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター第1部門 部門長
- ・高等教育研究開発推進機構執行協議会 協議員
- ・点検・評価実行委員会 委員

#### 【社会活動】

- ・日本教育心理学会常任編集委員
- ・日本教育心理学会理事
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 学位審査会専門委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会委員
- ・特定非営利活動法人実務能力認定機構理事
- ・最高裁判所 家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員
- ・ISO/TC232 (人材育成と非公式教育サービス) 国内審議委員会委員
- ・電通育英会 奨学生選考委員
- ・財団法人短期大学基準協会評議員

- ・大学教育学会 理事
- ・高等教育質保証学会 評議員
- ・日本高等教育学会 理事
- ・ISO29990 サービス認証スキーム検討委員会主査
- ・京都橘大学・大学教育推進プログラム『オリターが養成する学習コミュニティの形成』2011 年度学外評価委員
- ・大阪市立大学都市健康・スポーツ研究センター 外部評価委員

#### 【講演・シンポジウムなど】

- ・夏目達也・大塚雄作・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子・大森不二雄・中島英博・吉永契一郎 2011.5.29 大学教育改革における大学執行部のリーダーシップの形成と発揮——国立大学副学長を中心に 第14回日本高等教育学会(名城大学)
- ・大塚雄作 2011.6.15. 大学評価の現状とその方向性——第2期認証評価期間を迎えて New Education Expo 2011 大阪マーチャンダイズ・マート
- ・大塚雄作 2011.7.28. 自由で開かれた大学に向けて——授業評価・FDの意義を問い直す—— ノートルダム清心女子大学
- ・大塚雄作 2011.7.26. 教育心理学における尺度開発の課題 日本教育心理学会第53回総会・研究委員会シンポジウム3「教育心理学研究に求められる質の高い研究論文とは何か——『教育心理学研究』の現状と課題について——」
- ・大塚雄作 2011.9.26. FD研究コミュニティの形成に向けて JFDN jr. 会合 京都外国語大学
- ・大塚雄作 2011.8.25. 教育の質保証に関する動向 専修学校等の質保証に関する専門人材養成プログラム
- ・大塚雄作 2011.8.25. 教育評価の多様性を知る 専修学校等の質保証に関する専門人材養成プログラム
- ・大塚雄作 2011.9.11. 指定討論 企画シンポジウム『教育測定としての入学試験』 日本テスト学会第9回大会・岡山大学
- ・大塚雄作 2011.10.9. 教育の質保証に関する動向 専修学校等の質保証に関する専門人材養成プログラム
- ・大塚雄作 2011.10.9. 教育評価の多様性を知る 専修学校等の質保証に関する専門人材養成プログラム
- ・大塚雄作 2011.10.6. つなぐFDの発想と評価——教育に関わるネットワーク形成の意義—— 熊本県立大学
- ・大塚雄作 2011.10.14. 大学院FDと大学院生のための教育力育成 北陸先端科学技術大学院大学
- ・大塚雄作 2011.10.31. 教育評価の多様性を知る 専修学校等の質保証に関する専門人材養成プログラム
- ・大塚雄作 2011.11.24. これからの大学評価を考える——評価の原点に立ち返って—— 大阪大学大学教育実践センター・第8回高等教育質保証研究会
- ・大塚雄作・高橋雄介 2011.12.2. 最近の大学教育の動向について——学生調査の工学部の特徴を踏まえて—— 京都大学工学部・教育シンポジウム
- ・大塚雄作 2012.2.3. 実質的学びの場の構築に向けて——つなぐFDの発想と評価—— 群馬大学
- ・大塚雄作 2012.3.12. 大学教育の動向と教育評価——学びの実質化に向けて—— ベネッセ CRET 研究会

### 松下 佳代(教授)

#### 1. 研究業績

##### 【著書】

(編著)

- ・Center for the Promotion of Excellence in Higher Education at Kyoto University, & Matsushita, K. (Eds.) 2011.10 *Building networks in higher education: Towards the future of faculty development*. Tokyo: Maruzen Planet.

(分担執筆)

- ・Matsushita, K. 2011.10 Foreword: The standards approach and the generative approach. In the Center for the Promotion of Excellence in Higher Education at Kyoto University, & Matsushita, K. (Eds.) *Building networks in higher education: Towards the future of faculty development* (pp. x-xiv). Tokyo: Maruzen Planet.



- ・ Matsushita, K. 2011.10 Principles and methods of building faculty development networks: Mutual faculty development and the scholarship of teaching and learning. In the Center for the Promotion of Excellence in Higher Education at Kyoto University, & Matsushita, K. (Eds.) *Building networks in higher education: Towards the future of faculty development* (pp. 44-69). Tokyo: Maruzen Planet.
- ・ 松下佳代 2012.1 「日本の子どもは孤独?—UNICEF 子どもの幸福度調査のデータミュー」 子安増生・杉本均編『幸福感を紡ぐ人間関係と教育』ナカニシヤ出版, 22-23 頁
- ・ 松下佳代 2012.3 「大学カリキュラム」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版, 25-57 頁
- ・ 松下佳代・田口真奈 2012.3 「大学授業」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版, 77-109 頁
- ・ 松下佳代 2012.3 「SOTL (ソートル)」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版, 321-323 頁

#### 【論文】

- ・ 田口真奈・松下佳代・半澤礼之 2011.11 「大学授業における教授のデザインとリフレクションのためのワークシートの開発」『日本教育工学雑誌』第 35 巻第 3 号, 269-277 頁
- ・ 松下佳代 2011.8 「〈新しい能力〉による教育の変容—DeSeCo キー・コンピテンシーと PISA リテラシーの検討—」『日本労働研究雑誌』第 614 号, 39-49 頁
- ・ 半澤礼之・田口真奈・田川千尋・松下佳代 2011.12 「学習者の多様性に基づく授業のリフレクション—京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトを対象に—」『京都大学高等教育研究』第 17 号, 123-133 頁

#### 【その他の著作物】

(報告書)

- ・ Matsushita, K. 2012.3 Beyond the rubric: Grasping the quality horizontally as well as vertically in performance assessment. 『ポスト近代社会における〈新しい能力〉概念とその形成・評価に関する研究』平成 21 年度～平成 23 年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(基盤研究 (B) 課題番号: 21330179, 研究代表者: 松下佳代), 113-119 頁
- ・ Matsushita, K., & Hirayama, T. 2012.3 Is simulated practice effective in the transition from school to work?: The case of OSCE-R for physical therapy education. 同上, 120-129 頁
- ・ 杉原真晃・松下佳代・伊藤実歩子 2012.3 「オーストラリア調査報告 (2009 年度)」同上, 131-136 頁
- ・ 松下佳代 2012.3 「科学コミュニケーションから科学教育へのアプローチ」を考える—科学リテラシーの形成と意思決定の主体に焦点をあてて—『サイエンスコミュニケーションデザインを支援する知のネットワーキングに関する研究』平成 22 年度～平成 24 年度文部科学省科学研究費補助金研究成果中間報告書(基盤研究 (B) 課題番号: 22402001 研究代表者: 鈴木真理子), 28-31 頁
- ・ 半澤礼之・高橋雄介・田川千尋・坂本尚志・田口真奈・松下佳代 2012.3 「文学研究科プレ FD プロジェクト」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型 FD 拠点活動報告 2011』21-31 頁
- ・ 高橋雄介・藤本夕衣・及川恵・松下佳代 2012.3 「文学研究科プレ FD プロジェクト」同上, 34-45 頁
- ・ 半澤礼之・松下佳代・田口真奈 2012.3 「新任教員教育セミナー」同上, 63-78 頁
- ・ 田川千尋・松下佳代・高橋雄介・坂本尚志 2012.3 「FD 連携企画ワーキンググループ」同上, 162-166 頁
- ・ 松下佳代・酒井博之 2012.3 「ISSOTL2011 参加報告」同上, 279-284 頁
- ・ 田川千尋・松下佳代 2012.3 「Deep Learning にもとづく大学教育のあり方」同上, 292-293 頁

(書評)

- ・ 松下佳代 2011.3 「竹川慎哉著『批判的リテラシーの教育—オーストラリア・アメリカにおける現実と課題—』」『日本教育方法学会紀要』第 36 巻, 151-152 頁

(その他)

- ・ 松下佳代 2011.6 「PISA の能力観・評価観と日本的受容の過程」『教育』第 785 号, 4-12 頁

- ・松下佳代 2011.6 「PISA の成績が改善したって本当なの？」教育開発研究所編『教育の最新事情がよくわかる本 2』教育開発研究所, 88-90 頁
- ・松下佳代 2011.6 「OECD の PIAAC (ピアック) ってどんな調査なの？」教育開発研究所編『教育の最新事情がよくわかる本 2』教育開発研究所, 270 頁

#### 【学会発表】

- ・松下佳代 2011.6.5 「理論と実践知の往還を促す教育のための実践研究」大学教育学会第 33 回大会 (「ラウンドテーブル「実践研究による理論と実践知の協働」) 桜美林大学
- ・半澤礼之・田口真奈・田川千尋・松下佳代 2011.6.5 「学習者の多様性にもとづく授業のリフレクション—京都大学プレ FD プロジェクトにおける学生インタビューから—」大学教育学会第 33 回大会, 桜美林大学
- ・Matsushita, K. & Hirayama, T. 2011.9.7 Is simulated practice effective in the transition from school to work?: The case of OSCE-R for physical therapy education. ISCAR (International Society for Cultural and Activity Research) 2011, September 5-10, 2011, Rome
- ・松下佳代 2011.10.1 「全国学力・学習状況調査と PISA の同型性—JELS の経験をふまえて—」(公開シンポジウム「秋田の教育と学力から見えてくるもの」) 第 47 回日本教育方法学会, 秋田大学
- ・Matsushita, K. & Hirayama, T. 2011.10.21 Student assessment and learning of clinical competence: Development of OSCE-R and its revision. ISSOTL (International Society for the Scholarship of Teaching and Learning) 11, October 20-23, 2011, Milwaukee
- ・Matsushita, K. 2011.11.27 Beyond the rubric: Grasping the quality horizontally as well as vertically in performance assessment. The World Association of Lesson Studies International Conference 2001 (Symposium 2: High-quality learning: Approaches from lesson studies), November 25-28, 2011, The University of Tokyo
- ・平山朋子・松下佳代・西村敦・堀寛史 2012.3.16 「シミュレーションの教育的意義と可能性—理学療法教育における OSCE-R による学生の学びの促進—」第 18 回大学教育研究フォーラム, 京都大学
- ・松下佳代 2012.3.16 「指定討論: 学生の学びの変化につながる FD・教育改善とは?」(ラウンドテーブル「成果が学生にフィードバックされる FD とは—学生の学びの変化をとらえる—」) 第 18 回大学教育研究フォーラム, 京都大学

## 2. 教育活動

#### 【学内】

- ①全学共通教育: 「ライフサイクルと教育 A」(前期)、「学力・学校・社会」(後期)
- ③大学院教育: 「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科、前・後期)、「高等教育論演習ⅢA・B」(教育学研究科、前・後期)

## 3. その他の活動

#### 【学内委員】

- ・女性研究者支援センター ワーキンググループ事業推進員
- ・FD 研究検討委員会 第 2 WG メンバー

#### 【社会活動】

- ・日本教育学会理事、機関誌編集副委員長
- ・日本教育方法学会理事
- ・日本カリキュラム学会理事、国際委員会委員
- ・教育目標・評価学会理事
- ・大学教育学会理事、学会誌編集委員
- ・学校図書算数教科書著者
- ・山梨学院大学附属小学校学習カリキュラムセンター客員研究員

### 【講演】

(FD 関係)

- ・松下佳代 2011.5.13 「学習の質を評価する—パフォーマンス評価の考え方と方法—」創価大学 FD セミナー、創価大学
- ・松下佳代 2011.11.2 「学生を〈能動的生産者〉にするために」2011 年度第 3 回 FD セミナー、福岡県立大学
- ・松下佳代 2011.12.15 「初年次教育におけるパフォーマンス評価—学生レポートをどう評価するか—」授業改善プロジェクト FD ワークショップ、新潟大学歯学部

### 【その他】

- ・松下佳代 2011.4.23 「パフォーマンス評価—思考と表現を評価する—」金沢大学教育フォーラム、金沢大学
- ・松下佳代 2011.8.27 「パフォーマンス評価—学びの質を評価する—」山梨学院大学 附属小学校学習カリキュラムセンター大会 2011、山梨学院大学附属小学校
- ・松下佳代 2012.2.18 「〈新しい能力〉による教育の変容—PISA リテラシーを中心に—」2011 年度教育実践研究集会、京都教育大学附属高等学校
- ・松下佳代 2012.3.3 「学びの可視化と評価—パフォーマンス評価を中心に—」福井大学ラウンドテーブル 2012、福井大学

### 【その他】

- ・松下佳代 2011.8.1 「私の論点～学習論の立場から～」(総括パネルディスカッション)、大学生研究フォーラム 2011、京都大学
- ・松下佳代 2011.12.1 「Deep Learning のための学習評価」シンポジウム「Deep Learning にもとづく大学教育のあり方」京都大学高等教育研究開発推進センター、京都大学
- ・松下佳代 2011.12.11 「大学教育ネットワークの多層的形成」京都大学グローバル COE プログラム「心が活きる教育のための国際的拠点」総括シンポジウム、京都大学

## 飯吉 透 (教授) (2012 年 1 月～3 月)

### 1. 研究業績

#### 【著書など】

- ・酒井博之・田口真奈・飯吉透 2012.3 「大学教育と ICT」京都大学高等教育研究開発推進センター編、『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版、229-268 頁

#### 【学会発表】

- ・飯吉透 2012.3 「相互研修型 FD の未来：国際連携・ICT 利用などを巡って」第 18 回大学教育研究フォーラム (シンポジウム・パネルディスカッション) 京都大学

### 2. 教育活動

- ・該当なし

### 3. その他の活動

#### 【社会活動】

- ・北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター 客員教授
- ・私学高等教育研究所 客員研究員
- ・東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術学講座 フェロー

### 【講演】

- ・飯吉透 2012.2 「大学教育におけるポートフォリオの活用：ICT 利用の視点から」第 83 回公開研究会、京都大学高等教育研究開発推進センター
- ・飯吉透 2012.2 「グローバル人材を育てる大学院教育とは」国際セミナー「大学院教育の質保証と博士修了基準

とは」北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター

- ・飯吉透 2012.3 「京都大学における『教育の情報化』の現状と課題」シンポジウム「教育の情報化」京都大学
- ・飯吉透 2012.3 「オープンエデュケーションがもたらす人材革命—ウェブによって世界中の人々に教育の機会が開かれる意味—」グローバル・アジェンダ・ゼミナール、アカデミーヒルズ
- ・飯吉透 2012.3 「Opening Up Education: Towards Higher Education 2.0 for the Knowledge-Based Society」Fujitsu Laboratories of America

## 溝上 慎一

### 1. 研究業績

#### 【著書】

- ・溝上慎一 2011.6 「アクティブラーニングからの総合的展開—学士課程教育（授業・カリキュラム・質保証・FD）、キャリア教育、学生の学びと成長—」河合塾（編）アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか—経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと— 東信堂 pp.251-273.
- ・Mizokami, S. 2011 「Reconsidering faculty/educational development and career education from the perspective of student lives: Through the practices of the Kyoto Career Seminar.」In Center for the Promotion of Excellence in Higher Education at Kyoto University & K. Matsushita (Eds.), *Building networks in higher education: Towards the future of faculty development*. Tokyo: Maruzen Planet, pp. 162-184.
- ・溝上慎一 2012.1 「自己の形成と発達」米谷淳・米澤好史・尾入正哲・神藤貴昭（編）行動科学への招待—現代心理学のアプローチ [改訂版] 福村出版 97-108 頁
- ・梶田叔一・溝上慎一（編）2012.2 「自己の心理学を学ぶ人のために」 世界思想社
- ・溝上慎一 2012.3 「学生の学びと成長・支援」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版 119-145 頁.

#### 【論文】

- ・河井亨・溝上慎一 2011.11 「実践コミュニティに足場を置いたラーニング・ブリッジング—実践コミュニティと授業を架橋する学生の学習研究—」大学教育学会誌, 33(2), 124-131 頁.
- ・溝上慎一 2011.12 「自己形成を促進させる自己形成モードの研究 青年心理学研究, 23(2), 159-173 頁.

#### 【その他の著作物】

- ・溝上慎一 2011.4 「社会学的には後期近代・自己物語・アイデンティティ形成でも、心理学的には多様な青年期の自己形成力学—『現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ』のその後—」書斎の窓（有斐閣），No. 603, 48-53 頁.
- ・溝上慎一 2011.5 「反抗期のない大学生」教育と医学, 2011 年 5 月号, 30-37 頁.
- ・溝上慎一 2011.10 「なぜ思春期に自己意識は高まるのか——そして自己形成へ」 児童心理, No. 939 (2011 年 10 月号), 74-80 頁.
- ・溝上慎一 2012.1 「青年期の自己形成から見たキャリア発達、社会的自立」発達（ミネルヴァ書房），129, 11-17 頁.

#### 【学会発表】

- ・溝上慎一・畑野快 2011.6 「大学生の2つのライフの構造分析 1—将来指向性と日常指向性のバランスの観点から—」第33回大学教育学会大会発表要旨集録, 198-199 頁 (2011 年 6 月 5 日, 桜美林大学)
- ・溝上慎一・畑野快 2011.6 「大学生の2つのライフの構造分析 2—将来指向性と日常指向性のバランスの観点から—」第33回大学教育学会大会発表要旨集録, 198-199 頁 (2011 年 6 月 5 日, 桜美林大学)
- ・溝上慎一 2011.9 指定討論 中間玲子企画自主ワークショップ「青年期における自己とキャリアの相互形成過程 (1)」日本心理学会第75回大会発表論文集, WS(12). (2011 年 9 月 15 日, 日本大学)
- ・溝上慎一 2011.11 「ポジショニングによって変わる自尊心—分権的自己観の実証的検討—」日本青年心理学会第19回大会発表論文集, 78-79 頁. (2011 年 11 月 27 日, 文教学院大学)

- ・ Mizokami, S., & Nakama, R. (2012). Considering the relationship between identity as a whole and its content domains. Poster presented at the Society for Research on Identity Formation 19th Annual Conference. (2012 年 3 月 7 日, Vancouver, Canada).

## 2. 教育活動

### 【学内】

#### ①全学共通教育

「現代青年期の心理学」「自己形成の心理学」

#### ②KUINEP

「University and University Students in Today's Japan」「Self-formation in Adolescence」

#### ③大学院教育

教育学研究科「高等教育開発論研究 A」「高等教育開発論研究 B」「高等教育開発論基礎」

## 3. その他の活動

### 【学内委員】

- ・ FD 研究検討委員会
- ・ 教育制度委員会・全学共通教育システム委員会合同 WG 委員会委員
- ・ 吉田キャンパス整備専門委員会
- ・ 教育学研究科学生委員

### 【社会活動】

- ・ 日本青年心理学会理事
- ・ 日本発達心理学会理事
- ・ 大学教育学会理事
- ・ 日本心理学会地域別代議員（近畿）
- ・ 日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員
- ・ 日本発達心理学会『発達心理学研究』編集委員
- ・ 日本教育心理学会『教育心理学研究』常任編集委員
- ・ International Conference on the Dialogical Self、Scientific Committee 委員
- ・ 電通育英会大学生調査アドバイザー
- ・ 大阪府立大学高等教育推進機構学長補佐
- ・ 島根大学就学力育成支援事業外部評価委員
- ・ 龍谷大学経済学部第 3 期アドバイザリーボード・メンバー
- ・ 関西大学「三者協働型アクティブ・ラーニングの展開」外部評価委員会委員
- ・ 学校法人河合塾 新しい学力研究プロジェクト「高校生のコンピテンシー測定」にかかる「重要な他者との関係」の測定項目の開発 業務委託
- ・ 広島大学大学院生物圏科学研究科・理数学生育成プログラム評価委員

### 【講演等】

- ・ 溝上慎一 2011.5 「座学とアクティブ・ラーニングの連携、豊かになる学生の大学生生活とキャリア意識」皇學館大学教育開発センター FD 講演会
- ・ 溝上慎一 2011.6 「これからの学びの可能性とアクティブラーニング」New Education Expo 2011 講演
- ・ 溝上慎一 2011.6 「単位制度の実質化と学生の学びと成長」大阪大学大学教育実践センター第 8 回大学教育セミナー講演
- ・ 溝上慎一 2011.6 「学生が成長する大学の学びとは—大学教育の意義を考える—」熊本学園大学平成 23 年度大学懇談会特別講演会



- ・溝上慎一 2011.7 「アクティブラーニングとピアラーニング」立教大学経営学部リーダーシップ研究所シンポジウム講演
- ・溝上慎一 2011.8 「育てる教育力学と支援する教育力学の相補的關係」京都大学高等教育研究開発推進センター・東京大学大学総合教育研究センター・公益財団法人電通育英会共催「大学生研究フォーラム 2011」報告
- ・溝上慎一 2011.8 「学生の主体的学習を促すアクティブラーニング型の授業づくり」独立行政法人国立病院機構本部東海北陸ブロック事務所 看護教員実務研修（Ⅰ）
- ・溝上慎一 2011.8 「大学生の学びを支援する、大学生の学習意欲」広島大学全学 FD—学生支援教職員研修会—講演Ⅲ
- ・溝上慎一 2011.8 「アクティブラーニングはなぜ必要なのか—学生の学びと成長を促すもの—」産業能率大学第5回キャリア教育推進フォーラム講演
- ・溝上慎一 2011.9 「これからの学びの可能性とアクティブラーニング—新キャンパスにおける教育方法—」大阪経済法科大学 FD 研修会講演
- ・溝上慎一 2011.10 「学生の能動的な学習を促す授業づくり」防衛大学校防大フォーラム講演
- ・溝上慎一 2011.10 「知にこだわった大学のアクティブラーニング型授業」首都大学東京平成 23 年度 FD セミナー講演
- ・溝上慎一 2011.10 「学生の学習・生活実態と求められるアクティブラーニング」京都大学図書館機構第 1 回講演会講演
- ・溝上慎一 2011.10 「今どのような大学へ進学すればいい？—単純に難関大？教育力の高い大学？都市圏？地方？—」北海道札幌北高等学校講演
- ・溝上慎一 2011.10 「育てる教育力学と支援する教育力学の相補的關係—大学教育の現場から伝えたいこと—」学研教育みらい 平成 23 年度 北海道地区入試対策情報交換会講演
- ・溝上慎一 2011.10 「最近の学生の実態と教育的支援」京都大学中堅職員研修講師
- ・溝上慎一 2011.11 「アンケート調査から見る学生の学びと成長の実態、実践的示唆」仁愛大学（FD 学内研修会講演）
- ・溝上慎一 2011.11 「大学側から見た学生の学びと成長支援—大学と大学生協との協働—」大学生協連講演会
- ・溝上慎一 2011.11 「大学にふさわしい『知』にこだわったアクティブラーニング型授業とは何か」横浜国立大学 FD 推進部主催講演
- ・溝上慎一 2011.11 「現代社会を生きる青少年の適応／不適応と自立・自己実現」滋賀県立膳所高等学校講演
- ・溝上慎一 2011.12 「Active Learning を Deep Learning にするために」京都大学高等教育研究開発推進センター第 82 回公開研究会・パネリスト
- ・溝上慎一 2011.12 「Active Learning を取り入れた授業」上智大学 2011 年度第 6 回 FD ワークショップ
- ・溝上慎一 2011.12 「将来の仕事を見据えての高校・大学での勉強」岡山朝日高等学校講演
- ・溝上慎一 2011.12 リクルート主催「高校生・じぶん未来発表会」コメント・審査
- ・溝上慎一 2011.12 「基礎学力だけではやっていけない大学での学び」三重県高等学校平成 23 年度医学部等進学対策講座 教員の部講演
- ・溝上慎一 2012.1 「この一年のアクティブラーニングへの取り組み・展開を振り返って」関西大学 FD 第 6 回フォーラム「三者協働型アクティブ・ラーニングの展開」最終成果報告会講演
- ・溝上慎一 2012.2 「評価とは何かの基本に戻って PBL の評価を考える」同志社大学 PBL 推進センター主催シンポジウム基調講演
- ・溝上慎一 2012.2 「青年心理学における自己論の流れ」自己意識研究会主催「自己論」連続セミナー講義
- ・溝上慎一 2012.2 「現代の大学生の学び・職業に対する姿勢・考え方」兵庫医療大学看護学部（FD 講演会）
- ・溝上慎一 2012.3 「英語英文学科の学生は成長しているか。学生支援の効果は見られるか—3 年間の追跡調査アンケートの結果報告—」京都ノートルダム女子大学学生支援推進プログラム 成果報告会基調講演



## 田口 真奈 (准教授)

### 1. 研究業績

#### 【著書】

- ・ TAGUCHI, M. 2011.10 “Determining the “Who” and the “How” of Faculty Development Promotion”: An Examination of the Specialist Model and the Collegial model, Center for the Promotion of Excellence in Higher Education at Kyoto University, & Matsushita, K. (Eds.) “*Building networks in higher education: Towards the future of faculty development*”, Tokyo: Maruzen Planet. 124-138
- ・ 松下佳代・田口真奈 2012.3 「大学授業」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版, 77-109 頁
- ・ 酒井博之・田口真奈・飯吉透 2012.3 「大学教育と ICT」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版, 229-268 頁
- ・ 田口真奈・神藤貴昭 2012.3 「ファカルティ・ディベロップメント」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版, 277-315 頁
- ・ 田口真奈 2012.2 「『未来の大学教員』のこれからを考える」『幸福感を紡ぐ人間関係と教育』ナカニシヤ出版, 94-95 頁

#### 【論文】

- ・ 田口真奈・松下佳代・半澤礼之 2011.11 「大学授業における教授のデザインとリフレクションのためのワークシートの開発」『日本教育工学会論文誌』第 35 号第 3 号, 269-277 頁
- ・ 半澤礼之・田口真奈・田川千尋・松下佳代 2011.12 「学習者の多様性に基づく授業のリフレクション—京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトを対象に—」『京都大学高等教育研究』第 17 号, 123-133 頁

#### 【その他の著作物】

- ・ 半澤礼之・高橋雄介・田川千尋・坂本尚志・田口真奈・松下佳代 2012.3 「文学研究科プレ FD プロジェクト」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型 FD 拠点活動報告 2011』21-33 頁
- ・ 半澤礼之・松下佳代・田口真奈 2012.3 「新任教員教育セミナー」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型 FD 拠点活動報告 2011』63-92 頁
- ・ 田口真奈・半澤礼之 2012.3 「FD 共同実施ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型 FD 拠点活動報告 2011』150-161 頁
- ・ 半澤礼之・田口真奈 2012.3 「若手 FD 研究者ネットワーク (JFDN Jr.)」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型 FD 拠点活動報告 2011』273-277 頁

#### 【学会発表】

- ・ 大山牧子・田口真奈 2011.6.5 「大学における授業デザインを省察するためのモデル検討—アクティブラーニング形態の授業を対象に—」大学教育学会 桜美林大学
- ・ 半澤礼之・田口真奈・田川千尋・松下佳代 2011.6.5 「学習者の多様性にもとづく授業のリフレクション—京都大学プレ FD プロジェクトにおける学生インタビューから—」大学教育学会 桜美林大学
- ・ 大山牧子・畑野快・山田嘉徳・田口真奈 2011.9.17 「プレ FD の在り方を問う—大学院生が大学教育を考える—」日本教育工学会 首都大学東京
- ・ 田口真奈・大山牧子 2011.9.19 「京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトにおける公開授業・検討会の実践と評価」日本教育工学会 首都大学東京
- ・ 大山牧子・田口真奈 2011.9.19 「公開授業・検討会が大学初任教員のリフレクションに与える影響—京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトを対象に—」日本教育工学会 首都大学東京

### 2. 教育活動

#### 【学内】

- ①全学共通教育: 「ライフサイクルと教育 B」(後期分担)

- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科、前・後期)、「高等教育文献購読演習 A・B」(教育学研究科、前・後期)

### 3. その他の活動

#### 【学内委員】

- ・京都大学教育学研究科・教務委員

#### 【非常勤講師】

- ・田口真奈 2011.6.17 「途上国の高等教育」 平成 23 年度 東京世田谷学習センター 放送大学

#### 【講演】

- ・田口真奈 2011.10.7 「日本と北米の大学における ICT 利用の現状と将来的課題」『第 9 回 ポートフォリオ・LMS の先端事例研究セミナー—manaba の運用実績と学習効果』パネルディスカッション (株)朝日ネット主催

## 酒井 博之 (特定准教授)

### 1. 研究業績

#### 【著書】

- ・酒井博之 2011.4 「聴覚」『心理学概論』京都大学心理学連合編, ナカニシヤ出版, 3.3 章, 59-65 頁.
- ・Hiroyuki Sakai 2011.10 Mutual Faculty Development Through Technology: The development of MOST and its future directions. Building networks in higher education: Towards the future of faculty development, Center for the Promotion of Excellence in Higher Education & Matsushita, K. (Eds.), Tokyo: Maruzen Planet, Chap. 6, 105-122.
- ・酒井博之 2012.1 「教育リソースの無償公開による新たな教育の可能性」『幸福感を紡ぐ人間関係と教育』子安増生・杉本均編, ナカニシヤ出版, コラム 9, 77-78 頁.
- ・酒井博之・田口真奈・飯吉透 2012.3 「大学教育と ICT」京都大学高等教育研究開発推進センター編、『生成する大学教育学』, ナカニシヤ出版, 229-268 頁.
- ・酒井博之 2012.3 「KEEP Toolkit」『大学力を高める e ポートフォリオエビデンスに基づく教育の質保証をめざして一』小川賀代・小村道昭編著, 東京電機大学出版局, 12 章, 195-208 頁.

#### 【論文】

- ・酒井博之 2011.12 「組織間ピアレビューを導入した組織的 FD 活動の情報共有の試み—参加者アンケートとピアレビューコメントの分析を通して—」『京都大学高等教育研究』第 17 号, 109-121 頁.

#### 【その他の著作物】

- ・酒井博之 2011.6 FD・教育改善を推進するための ICT の役割 (第 5 分科会)、第 16 回 FD フォーラム報告集、大学コンソーシアム京都、1-25 頁
- ・酒井博之 2011.7 関西地区 FD 連絡協議会第 4 回総会「FD 活動の報告会 2011」、関西地区 FD 連絡協議会広報ワーキンググループ編 (編集責任者)
- ・酒井博之 2012.3 III-2. FD 活動の報告会、京都大学高等教育叢書 31 (「相互研修型 FD 拠点活動報告 2011」：平成 23 年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」・平成 23 年度教育関係共同利用拠点「相互研修型 FD 共同利用拠点」)、143-147 頁
- ・酒井博之 2012.3 III-6. 広報ワーキンググループ、京都大学高等教育叢書 31 (「相互研修型 FD 拠点活動報告 2011」：平成 23 年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」・平成 23 年度教育関係共同利用拠点「相互研修型 FD 共同利用拠点」)、167-169 頁
- ・酒井博之 2012.3 IV-1. MOST、京都大学高等教育叢書 31 (「相互研修型 FD 拠点活動報告 2011」：平成 23 年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」・平成 23 年度教育関係共同利用拠点「相互研修型 FD 共同利用拠点」)、183-190 頁
- ・松下佳代・酒井博之 2012.3 V-1. ISSOTL 11 参加報告、京都大学高等教育叢書 31 (「相互研修型 FD 拠点活動報告 2011」：平成 23 年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」・平成 23 年度教育関係

共同利用拠点「相互研修型 FD 共同利用拠点」)、279-291 頁

- ・ 酒井博之 2012.3 V-2-2. Bernstein 先生講演、京都大学高等教育叢書 31 (「相互研修型 FD 拠点活動報告 2011」: 平成 23 年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」・平成 23 年度教育関係共同利用拠点「相互研修型 FD 共同利用拠点」)、316-318 頁

#### 【学会発表】

- ・ 酒井博之 2011.9 「オンライン FD 支援システム「MOST」の活用—組織的 FD 活動の地域連携への適用 (その 2) 一」日本教育工学会第 27 回全国大会講演論文集、825-826 頁、首都大学東京
- ・ Sakai, H. 2011.10 Building a technology-enabled course portfolio program across institutions, the 2011 International Society for the Scholarship of Teaching and Learning Conference (Poster Session) (Milwaukee, U.S.A., Oct. 20-23, 2011)
- ・ 酒井博之・大山牧子・田口真奈 2012.3 「コースポートフォリオによるカリキュラム改善の試み」第 18 回大学教育研究フォーラム、97-98 頁、京都大学

## 2. 教育活動

#### 【学内】

- ①全学共通科目:「音響心理学概論」(後期、A・B 群)
- ③大学院教育:「高等教育開発論研究 A・B」(前・後期・共同)

#### 【学外】

- ・ 京都コンピュータ学院非常勤講師

## 3. その他の活動

#### 【学内委員】

- ・ 情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会委員
- ・ 高等教育研究開発推進センター情報セキュリティ委員

#### 【社会活動】

- ・ 関西地区 FD 連絡協議会 広報ワーキング・グループ
- ・ 大学コンソーシアム京都 FD フォーラム企画検討委員

#### 【講演】

- ・ 酒井博之 2011.9.27 「MOST を利用したコースポートフォリオの作成」大阪府立大学工業高等専門学校
- ・ 酒井博之 2012.2.12 「大学教育におけるポートフォリオの活用—授業改善からカリキュラム改善へ— (事例報告)」、京都大学高等教育研究開発推進センター第 83 回公開研究会、京都大学
- ・ 酒井博之 2012.3.21 「大学授業改善のためのポートフォリオ活用」岐阜医療科学大学

#### 【その他】

- ・ 酒井博之 2011.11.1 「公開授業・検討会」 京都大学
- ・ 酒井博之 2012.3.4 「ティーチングポートフォリオの組織的導入と活用 (第 2 分科会・コーディネーター)」、第 17 回 FD フォーラム、大学コンソーシアム京都、京都産業大学

## 及川 恵 (特定准教授) (2011 年 4 月~2011 年 9 月)

### 1. 研究業績

#### 【学会発表】

- ・ 及川恵・亀山晶子・坂本真士 2011.6 「Psycho-educational program for preventing depression among Japanese undergraduates: Focusing on self-efficacy for coping with depression.」7<sup>th</sup> International Congress of Cognitive Psychotherapy, Istanbul.
- ・ 畑野快・及川恵・半澤礼之 2011.7 「大学生を対象とした自己調整学習方略尺度作成の試み」日本教育心理学会第 53 回総会 (北海道学校心理士会・北翔大学)

- ・林潤一郎・及川恵 2011.9 「対人ストレス場面での気晴らしの問題解決促進プロセスと特性要因との関連—先延ばしと認知的再解釈に着目して—」 日本健康心理学会第24回大会（早稲田大学国際会議場）
- ・及川恵・林潤一郎 2011.9 「反すうと活動選択の知識が気晴らし方略の効果に及ぼす影響—気晴らし方略の頻度と集中に着目した検討—」 日本パーソナリティ心理学会第20回大会（京都光華女子大学）
- ・及川恵・亀山晶子・坂本真士 2011.9 「抑うつ予防を目的とした心理教育プログラムの検討（7）—自己効力感と抑うつとの関連—」 日本心理学会第75回大会（日本大学）
- ・亀山晶子・及川恵・坂本真士 2011.9 「抑うつ予防を目的とした心理教育プログラムの検討（8）—介入後の対人的対処効力感の向上における個人差要因について—」 日本心理学会第75回大会（日本大学）

## 2. 教育活動

### 【学内】

- ①全学共通教育：「心理的適応とストレス」（前期）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究A」（前・共同）、「高等教育開発論基礎」（前・共同）

## 3. その他の活動

### 【学内委員】

- ・教務委員会委員
  - ・ハラスメント部局相談窓口
- （2011年10月転出）

## 半澤礼之（特定助教）

### 1. 研究業績

#### 【著書】

- ・半澤礼之 2012.3 「大学生の学業適応」 京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版、162-164頁

#### 【論文】

- ・半澤礼之 2011.6 「大学生の学業に対するリアリティショックを捉える視点—大野論文・伊田論文に対するリプライ」『青年心理学研究』第23巻1号、90-94頁
- ・半澤礼之 2011.6 「大学生の学びとキャリア意識の発達：大学での学びによる発達を前提としたキャリア研究という視点」『心理科学』第32巻1号、22-29頁
- ・田口真奈・松下佳代・半澤礼之 2011.12 「大学授業における教授のデザインとリフレクションのためのワークシートの開発」『日本教育工学会論文誌』第35巻3号、269-277頁
- ・半澤礼之・田口真奈・田川千尋・松下佳代 2011.12 「学習者の多様性に基づく授業のリフレクション—京都大学文学研究科プレFDプロジェクトを対象に—」『京都大学高等教育研究』第17号、123-133頁

#### 【その他の著作物】

- ・半澤礼之・高橋雄介・田川千尋・坂本尚志・田口真奈・松下佳代 2012.3 「文学研究科プレFDプロジェクト」『京都大学高等教育叢書31』21-31頁
- ・半澤礼之・松下佳代・田口真奈 2012.3 「新任教員教育セミナー」『京都大学高等教育叢書31』63-78頁
- ・半澤礼之 2012.3 「サイエンスコミュニケーター・プロジェクト」『京都大学高等教育叢書31』97-101頁
- ・田口真奈・半澤礼之 2012.3 「FD共同実施ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書31』150-159頁
- ・半澤礼之・田口真奈 2012.3 「若手FD研究者ネットワーク（JFDN Jr.）—2011年度の活動報告と今後の展開について—」『京都大学高等教育叢書31』273-277頁

#### 【学会発表】

- ・半澤礼之・田口真奈・田川千尋・松下佳代 2011.5 「学習者の多様性にもとづく授業のリフレクション —京都

大学プレ FD プロジェクトにおける学生インタビューから」大学教育学会第 33 回大会、桜美林大学

- ・大久保智生・半澤礼之・澤邊潤・小泉令三・江村早紀・鹿毛雅治・東海林麗香 2011.7 「学校適応はどのようにとらえられるのか (3) : 教育実践を通して見えてくる学校適応」日本教育心理学会第 53 回総会、かでの 2.7
- ・半澤礼之 2011.11 「大学生の学習行動と自己決定—学びを通じた職業展望の明瞭さの観点から—」日本青年心理学会第 19 回大会、文京学院大学

## 2. 教育活動

### 【学外】

- ・武庫川女子大学非常勤講師

## 3. その他の活動

### 【講演】

- ・半澤礼之 2012.1 「大学生の学びから捉える授業改善—授業評価を資料として—」滋賀医科大学・授業評価に関する FD 研修会

### 【その他】

- ・半澤礼之 2011.5 「京都大学のプレ FD 2010」関西地区 FD 連絡協議会第 4 回総会・FD 活動の報告会
- ・半澤礼之 2011.12 「どうする、どうやる成績評価」大阪樟蔭女子大学 FD 研修会（グループワークファシリテーター）

## 田川 千尋（特定助教）

### 1. 研究業績

#### 【著書】

- ・田川千尋 2012.3 「大学教育の職業化：フランスの場合」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版、71-76 頁.
- ・田川千尋 2012.3 「SD（スタッフ・ディベロップメント）」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版、316-320 頁.

#### 【論文】

- ・半澤礼之・田口真奈・田川千尋・松下佳代 (2011). 「学習者の多様性に基づく授業のリフレクション—京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトから—」『京都大学高等教育研究』, 17, 123-133 頁.

#### 【その他の著作物】

- ・半澤礼之・高橋雄介・田川千尋・坂本尚志・田口真奈・松下佳代 2012.3 「文学研究科プレ FD プロジェクト」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型 FD 拠点活動報告 2011』21-33 頁.
- ・田川千尋 2012.3 「活動成果の概要」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型 FD 拠点活動報告 2011』107-142 頁.
- ・田川千尋・松下佳代・高橋雄介・坂本尚志 2012.3 「FD 連携企画ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型 FD 拠点活動報告 2011』162-166 頁.
- ・田川千尋・松下佳代 2012.3 「Deep Learning にもとづく大学教育のあり方」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型 FD 拠点活動報告 2011』292-315 頁.

#### 【学会発表】

- ・半澤礼之・田口真奈・田川千尋・松下佳代 2011.6.5 「学習者の多様性にもとづく授業のリフレクション—京都大学プレ FD プロジェクトにおける学生インタビューから—」大学教育学会第 33 回大会、桜美林大学.
- ・田川千尋 (2011). 「フランスの大学における課程の職業化政策とその実践」フランス教育学会第 29 回大会、2011 年 9 月 11 日、於、武庫川女子大学.
- ・TAGAWA Chihito (2011). L'analyse comparative sur le mode de la professionnalisation entre l'université française et l'université japonaise. RESUP Journée des jeunes chercheurs, 2011 年 9 月 23 日、於、Université Bourgogne, Dijon, France.



## 2. 教育活動

- ・該当なし

## 3. その他の活動

### 【社会活動】

＊学会役員、学外委員など

- ・文科省先導委託事業・教学ガバナンス調査委員（フランス担当）
- ・仏検二次試験（面接）試験官

## 藤本 夕衣（特定助教）

### 1. 研究業績

#### 【著書】

- ・藤本夕衣 2012.3 「コラム 教養教育」京都大学高等教育研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版、58-64 頁

## 高橋 雄介（特定助教）

### 1. 研究業績

#### 【著書】

- ・高橋雄介 2012.3 「教育測定・評価場面における信頼性と妥当性。」京都大学高等教育研究開発推進センター編、『生成する大学教育学』、217-222 頁。

#### 【論文】

- ・Takahashi, Y., Roberts, B. W., & Hoshino, T. (2012). Conscientiousness mediates the relation between perceived parental socialization of responsibility and self-rated health. *Psychology and Health*, **27**, 1048-1061.
- ・Takahashi, Y., Ozaki, K., Roberts, B. W., & Ando, J. (2012). Can low Behavioral Activation System predict depressive mood?: An application of non-normal structural equation modeling. *Japanese Psychological Research*, **54**, 170-181.
- ・Roberts, B. W., & Takahashi, Y. (2011). Personality trait development in adulthood: Patterns and implications. *Japanese Journal of Personality*, **20**, 1-10.
- ・山形伸二, 高橋雄介, 木島伸彦, 大野裕, 安藤寿康. (2011). Gray の行動抑制系と不安・抑うつ—双生児法による 4 つの因果モデルの検討—, パーソナリティ研究, **20**, 110-117 頁.
- ・高橋雄介, 山形伸二, 星野崇宏 (2011). パーソナリティ特性研究の新展開と経済学・疫学など他領域への貢献の可能性, 心理学研究, **82**, 63-76 頁.

#### 【その他の著作物】

- ・高橋雄介 (2011). II-2. 公開授業・検討会, 京都大学高等教育叢書 31, 19-20 頁.
- ・半澤礼之, 高橋雄介, 田川千尋, 坂本尚志, 田口真奈, 松下佳代 (2011). II-3-1. 文学研究科プレ FD プロジェクト, 京都大学高等教育叢書 31, 21-33 頁.
- ・高橋雄介, 藤本夕衣, 及川恵, 松下佳代 (2011). II-3-2. 大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—, 京都大学高等教育叢書 31, 34-62 頁.
- ・高橋雄介, 大塚雄作 (2011). II-5. 第 7 回工学部教育シンポジウム, 京都大学高等教育叢書 31, 93-96 頁.
- ・田川千尋, 松下佳代, 高橋雄介, 坂本尚志 (2011). III-5. FD 連携企画ワーキンググループ, 京都大学高等教育叢書 31, 162-166 頁.
- ・大塚雄作, 高橋雄介 (2011). III-7. 研究ワーキンググループ, 京都大学高等教育叢書 31, 170-175.
- ・大塚雄作, 及川恵, 高橋雄介 (2011). IV-4-1. FD ネットワーク代表者会議 (JFDN) 第 4 回会議の概要, 京都大学高等教育叢書 31, 170-175 頁.



## 【学会発表】

- ・高橋雄介 (2011). 混合軌跡モデリングを用いた2つの実データ分析事例：大規模長期縦断データと小規模短期縦断データ，ワークショップ「発達・老化のダイナミクスと個人差を捉える新しい縦断データ分析法—潜在クラス軌跡分析を中心に」(星野崇宏，岡田謙介，宇佐美慧，田中大介，鈴木敦命，高橋雄介 [=企画者・話題提供者])，日本心理学会第75回大会，日本大学，9月15～17日。
- ・田中麻未，高橋雄介，菅原ますみ (2011). 思春期の抑うつに及ぼす遺伝と環境の影響—性差についての行動遺伝学的検討，日本心理学会第75回大会，日本大学，9月15～17日。
- ・山形伸二，加藤憲司，出野美那子，藤澤啓子，鈴木国威，高橋雄介，安藤寿康 (2011). 就学前後期の子どもの適応と慢性疲労，日本心理学会第75回大会，日本大学，9月15～17日。
- ・高橋雄介 (2011). 抑うつ・不安症状の短期的な発達軌跡と BIS・BAS・EC との関連—成長混合モデリングを用いた検討—，日本パーソナリティ心理学会第20回大会，京都光華女子大学，9月2～4日。
- ・畑野快，高橋雄介 (2011). 大学生のキャリア意識が学習動機づけと学習行動に与える影響，日本パーソナリティ心理学会第20回大会，京都光華女子大学，9月2～4日。
- ・田中麻未，高橋雄介 (2011). 中学生の学校不適応感とパーソナリティとの関連における短期縦断的検討，日本パーソナリティ心理学会第20回大会，京都光華女子大学，9月2～4日。
- ・Moriya, J., & Takahashi, Y. (2011). Depression and interpersonal stress: The mediating role of cognitive emotion regulation. 15th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Individual Differences, London, U.K., July, 25-28.
- ・Hiraishi, K., Shikishima, C., Takahashi, Y., Yamagata, S., Sugimoto, Y., & Ando, J. (2011). Heritability of decisions and outcomes on public goods games. 23rd Annual Meeting of the Human Behavior and Evolution Society, Montpellier, France, June 29-July 3.
- ・Edmonds, G. W., Hill, P., Takahashi, Y., & Roberts, B. W. (2011). The healthy lifestyle as a mediator of the effects of personality on health. 2nd Biennial Conference of Association for Research in Personality, California, U.S.A. June 16-18.
- ・Yamagata, S., Sakai, A., Maeshiro, K., Matsuura, M., Tanaka, M., Takahashi, Y., Sugawara, K., Kijima, N., Sugawara, M. (2011). A MAOA gene, mother's parenting, and behavior problems: Using an MZ twin difference to detect 'pure' gene-environment interaction. 41th Annual Meeting of the Behavior Genetics Association, Rhode Island, U.S.A. June 6-9.

## 2. 教育活動

### 【学内】

- ・該当なし

### 【学外】

- ・該当なし

## 3. その他の活動

### 【社会活動】

- ・日本パーソナリティ心理学会 機関誌常任編集委員
- ・日本パーソナリティ心理学会 国際交流委員

### 【講演等】

- ・小野和宏，前田健康，高橋雄介，松下佳代 (2011). 大学学習法へのパフォーマンス評価の導入—問題発見・解決能力と論理的思考力を評価する—，新潟大学全学FD学習教育研究フォーラム，(2012年3月16日)
- ・大塚雄作，高橋雄介 (2011). 最近の大学教育の動向について—学生調査の工学部の特徴を踏まえて—，第7回工学部教育シンポジウム，(2011年12月2日)
- ・大塚雄作，高橋雄介 (2011). これからの大学評価を考える—評価の原点に立ち返って—，第8回高等教育質保証研究会，(2011年11月24日)

- ・高橋雄介（2011）．パーソナリティ特性研究の最近の展開と今後の可能性，中部大学人文学部心理学科心理コロキウム，（2011年10月5日）

## 坂本 尚志（特定研究員）（2011年10月～2012年3月）

### 1. 研究業績

#### 【その他の著作物】

- ・半澤礼之・高橋雄介・田川千尋・坂本尚志・田口真奈・松下佳代 2012.3 「文学研究科プレFDプロジェクト」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型FD拠点活動報告 2011』21-33 頁
- ・田川千尋・松下佳代・高橋雄介・坂本尚志 2012.3 「FD 連携企画ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 31 相互研修型FD拠点活動報告 2011』162-166 頁

#### 【学会発表】

- ・坂本尚志 2011.10 「ミシェル・フーコーにおける「残余の論理」—歴史と文学をめぐって」日本フランス語フランス文学会 2011 年度秋季大会、小樽商科大学

### 2. 教育活動

#### 【学外】

- ・ボルドー第三大学言語・文明学科日本セクション非常勤講師

### 3. その他の活動

#### 【講演】

- ・坂本尚志 2011.11 「ミシェル・フーコーにおける哲学と歴史」人文社会科学系若手研究者セミナー、日仏会館

#### 【その他】

- ・坂本尚志 2011.11 質疑応答通訳（担当：Sugimoto, Y. Témoignages et histoires sur l'expédition d'Égypte de Bonaparte）日仏シンポジウム Comment la fiction fait histoire : Emprunts, échanges, croisements、関西日仏学館

## 第二部門（全学共通教育カリキュラム企画開発部門）

## 吉田 純（教授）

### 1. 研究業績

#### 【著書】

（共著）

- ・戦友会研究会（編） 2012.3 『戦友会研究ノート』青弓社、17-33 頁、39-43 頁、130-134 頁

（その他の著作物）

- ・吉田純 2012.3 「科学技術コミュニケーションと SF 的想像力——小松左京が遺した問いをめぐって——」、『人環フォーラム』第 30 号、2-5 頁

（学会発表）

- ・吉田純 2011.5 「社会学が捉える現代資本主義——新しい『経済と社会』の可能性——」、第 62 回関西社会学会大会シンポジウム討論者、甲南女子大学
- ・吉田純 2012.2 「情報ネットワーク社会における親密圏・公共圏の再編成——再帰的近代化論の視角から——」、京都大学グローバル COE「親密圏と公共圏の再編成を目指すアジア拠点」コアプロジェクト「モダニティ論からみた公共圏の理論的検討」研究会、京都大学

## 2. 教育活動

### 【学内】

- ①全学共通教育：「社会学基礎論」「経験社会学Ⅰ」「社会学基礎ゼミナールA・B」
- ②学部教育：「社会情報論」「社会情報論演習A・B」（以上、総合人間学部）、「社会学特殊講義」（文学部）
- ③大学院教育：「共生人間学研究Ⅰ・Ⅱ」「人間・社会行動論2」「社会行動論演習2」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）、「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「社会行動論特別演習Ⅰ・Ⅱ」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）、「社会学特殊講義」（文学研究科）

## 3. その他の活動

### 【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・教養教育専門委員会
- ・教養教育専門委員会A群科目部会
- ・教養教育専門委員会少人数教育部会

### 【社会活動】

- ・日本社会情報学会 理事、会誌編集委員
- ・日本社会学会 データベース委員
- ・近畿地区大学教育研究会 専門委員、企画小委員会委員

## 山本 行男（教授）

### 1. 研究業績

#### 【論文】

- ・ T. Ito, A. Narita, T. Hirayama, M. Taki, S. Iyoshi, Y. Yamamoto, Y. Maeda, T. Oda “Human spire interacts with the barbed end of the actin filament” *J. Mol. Biol.*, **408**, 18-25 (2011)
- ・ T. Ito, T. Hirayama, M. Taki, S. Iyoshi, S. Dai, S. Takeda, C. K-Sakiyama, T. Oda, Y. Yamamoto, Y. Maeda, A. Narita “Electron microscopic visualization of the filament binding mode of actin binding proteins” *J. Mol. Biol.*, **408**, 26-39 (2011)
- ・ M. Taki, F. Asahi, T. Hirayama, Y. Yamamoto “Design and Synthesis of Fluorescent Probe for Polyhistidine Tag Using Macrocyclic Nickel (Ⅱ) Complex and Fluorescein Conjugate” *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, **84**, 386-394 (2011)
- ・ S. Iyoshi, M. Taki, Y. Yamamoto “Development of a Cholesterol-Conjugated Fluorescent Sensor for Site-Specific Detection of Zinc Ion at the Plasma Membrane” *Org. Lett.*, **13**, 4558-4561 (2011)

#### 【学会発表】

- ・多喜正泰・伊吉祥平・山本行男「様々なチオエーテル配位子を有する銅一価錯体の構造と機能」第61回錯体化学討論会，岡山理科大学，2011年9月
- ・赤岡一志・伊吉祥平・多喜正泰・山本行男「光誘起電子移動機構を利用した時間分解型亜鉛蛍光センサーの開発」第61回錯体化学討論会，岡山理科大学，2011年9月
- ・三井浩司・多喜正泰・山本行男「還元型フルオレセイン骨格を有する銅一価蛍光プローブの細胞内オルガネラ局在性の評価」日本化学会第92春季年会，慶應義塾大学，2012年3月
- ・赤岡一志・多喜正泰・山本行男「光励起電子移動機構を利用した時間分解型亜鉛蛍光センサーの開発」日本化学会第92春季年会，慶應義塾大学，2012年3月
- ・赤岡一志・山崎碧・多喜正泰・山本行男「細胞膜透過性を有する時間分解型亜鉛蛍光センサーの開発」日本化学会第92春季年会，慶應義塾大学，2012年3月
- ・押田至雅・多喜正泰・山本行男「ロサミン型亜鉛蛍光プローブによるミトコンドリアタンパク質の共有結合的ラベル化」日本化学会第92春季年会，慶應義塾大学，2012年3月

## 2. 教育活動

### 【学内】

#### ①全学共通教育

「基礎有機化学 A・B」「基礎化学実験」

#### ②学部教育

「物質構造論」「課題演習：分子の構造と機能」「自然科学特別ゼミナール A・B」

(以上、総合人間学部)

#### ③大学院教育

「関連環境学研究 I・II」「分子生体関連論 1」「分子環境関連論演習 1・2」「分子・生命環境基礎論」(以上、人間・環境学研究科 博士前期課程)、「関連環境学特別研究 I・II」「分子環境関連論特別演習 1・2」「分子・生命環境論特別セミナー」

(以上、人間・環境学研究科 博士後期課程)

## 3. その他の活動

### 【学内委員】

・基礎教育専門委員会委員

・化学部会委員

### 【社会活動】

(その他)

・2011 年 12 月 22 日 京都府立洛北高等学校附属中学校 出前授業

## 田地野 彰 (教授)

### 1. 研究業績

#### 【著書】

(単著)

・田地野彰 2011.07 『「意味順」英語学習法』, デイスクヴァー・トゥエンティワン, 全 252 頁.

(編著)

・田地野彰 2012.03 『TOEFL ITP® テスト 公式テスト問題&学習ガイド』, 研究社, 全 224 頁.

#### 【論文】

・田地野彰, 細越響子, 川西慧, 日高佑郁, 高橋幸, 金丸敏幸 2012.01 「アカデミックライティング授業におけるフィードバックの研究—Criterion®を導入した授業実践からの示唆—」, 『京都大学高等教育研究』, 第 17 号, 97-108 頁

・渡寛法, 細越響子, 加藤由崇, 金丸敏幸, 高橋幸, 田地野彰 2012.03 「母語を活用した英語指導—高校の英作文授業における「意味順」の効果検証」, *Studies in English Teaching and Learning in East Asia*, No. 4, 33-49 頁

・田地野彰 2012.03 「英語学術論文の分野横断的ムーブ分析—論文表現データベースの構築と活用に向けて—」, 『ことばを見つめて—内田聖二教授退職記念論文集』, 英宝社, 119-133 頁

・細越響子, 金丸敏幸, 高橋幸, 田地野彰 2012.03 「英文産出に与えるフィードバックの効果検証—Criterion®とピア・フィードバックに焦点をあてて—」, 『言語処理学会第 18 回年次大会論文集』, 1158-1161 頁

#### 【学会発表】

・高橋幸, 金丸敏幸, 田地野彰 2011.08 「アカデミックライティングのルーブリック開発に向けた能力記述文の分析」, 全国英語教育学会山形研究大会 (山形大学).

・高橋幸, 飯島優雅, 田地野彰 2011.09 「アカデミックライティングの評価指標の構築と有用性及び妥当性の検証」, 大学英語教育学会第 50 回記念国際大会 (西南学院大学).

・Takahashi, S., Hosogoshi, K., Kanamaru, T., and Tajino, A. 2011.11 “The effectiveness of the blended task-based course

in EAP writing”, 4<sup>th</sup> Biennial International Conference on Task-Based Language Teaching (Auckland University, New Zealand).

- ・田地野彰, 高橋幸, 金丸敏幸, 細越響子, 渡寛法, 加藤由崇 2011.12 「母語を活用したライティングの指導と評価—EGP から EAP へ—」, 第 115 回東アジア英語教育研究会 (西南学院大学).
- ・細越響子, 金丸敏幸, 高橋幸, 田地野彰 2012.03 「英文産出に与えるフィードバックの効果検証—Criterion® とピア・フィードバックに焦点をあてて—」, 言語処理学会第 18 回年次大会 (広島市立大学)

## 2. 教育活動

### 【学内】

- ①全学共通教育 英語ⅡA・B
- ②学部教育 英語教育方法論 (総合人間学部)
- ③大学院教育 (博士前期課程) 共生人間学Ⅰ・Ⅱ, 教育言語学, 外国語教育基礎論, 外国語教育基礎論演習; (博士後期課程) 共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ, 外国語教育論特別演習1・2, 外国語教育論特別セミナー (人間・環境学研究科)

### 【学外】

- ・京都府立大学 英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語科教育法Ⅰ
- ・奈良女子大学国際交流センター 夏季英語講座
- ・京都府立向陽高校 (高大連携プロジェクト)

## 3. その他の活動

### 【学内委員】

- ・外国語教育専門委員会
- ・外国語教育専門委員会英語部会
- ・人間・環境学研究科英語部会教務委員
- ・国立七大学外国語教育連絡協議会

### 【学外委員】(研究活動)

- ・大学英語教育学会関西支部研究企画委員

### 【講演・シンポジウムなど】

- ・田地野彰 2011.09 「これからの英文法指導のあり方—〈意味順〉指導法—」, 佐賀県英語教育研究会 (English Education for Tomorrow in Saga) (佐賀大学附属中学校)
- ・田地野彰 2011.09 「学習者にとって『よりよい文法』とは何か?—『意味順』の提案—」, 慶應義塾大学グローバル COE・PLT 英語教育シンポジウム「学習英文法～日本人の英語学習にふさわしい英文法の姿を探る～」(慶應義塾大学)
- ・田地野彰 2011.11 「コミュニケーションに活かす文法指導—意味順指導法の提案—」, 関西英語教育学会 (KELES) 第 23 回セミナー (京都教育大学)
- ・田地野彰 2011.12 「人にやさしい『意味順』英語学習法—何が分からないかが、わからない人へ—」, 相模女子大学英語文化コミュニケーション学科講演会 (相模女子大学)
- ・田地野彰 2012.03 「今後求められるライティング指導—アカデミックライティングの観点から—」, ELEC 同友会英語教育研究会ライティング研究部会公開研究会 (東京外国語大学本郷サテライト)

### 【その他】(学会賞受賞)

- ・田地野彰 2011.09 「2011 年度大学英語教育学会賞実践賞受賞」(大学英語教育学会第 50 回記念国際大会)

## 赤松 紀彦（教授）

### 1. 研究業績

#### 【著書】

（共著）

・赤松紀彦、道坂昭廣ほか著 2012.3 『中国語の世界—上海・2012』

#### 【論文】

・赤松紀彦 2012.3 「昆曲『下山』はどのように演じられるか」、『日本と中国の古典演劇の比較研究』京都府立大学、21-26 頁

#### 【学会発表】

・赤松紀彦 2011.5 「一幅畫說起—崑曲是否在十九世紀的日本長崎上演過—」，兩岸三地高校師生崑曲研討會，蘇州大学

### 2. 教育活動

#### 【学内】

- ①全学共通教育：「中国語ⅠA・B」「中国語ⅡA・B」
- ②学部教育：「東アジア比較芸能論演習A・B」「東アジア比較芸能論A」「文化環境学入門B」（総合人間学部）
- ③大学院教育：「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」「東アジア比較芸能論A」「地域文明論演習」（以上、人間・環境学研究科）

### 3. その他の活動

#### 【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・CALL システム運用委員会
- ・初修外国語群会代表

#### 【講演】

- ・赤松紀彦 2011.11 「從舞台結構的角度來看中日古典戲劇」，香港城市大學
- ・赤松紀彦 2011.11 「崑曲是否在二百年前的日本長崎上演過」，香港城市大學
- ・赤松紀彦 2011.11 「中國傳統音樂在日本」，香港城市大學

## David Dalsky（准教授）

### 1. 研究業績

#### 【論文】

・Dalsky, D. 2011.12. Effects of communicating success with friends on self-esteem in Japan and the United States. *Psychologia: An International Journal of Psychological Sciences*, 54, 178-189.

#### 【学会発表】

・Dalsky, D., Tajino, A., Sasao, Y. 2011.09. Effects of Technical Vocabulary Knowledge on Academic Writing: A Research Article Translation Task. *Japan Association of College English Teachers 50th Commemorative International Convention*, Seinan Gakuin University, Fukuoka, Japan.

### 2. 教育活動

#### 【学内】

- ①全学共通教育：
  - 英語ⅠA
  - 英語ⅠB
  - 英語ⅡA



英語ⅡB

英語ⅡA 単位未修得者クラス

英語ⅡB 単位未修得者クラス

CALL (英語ⅡAB 単位未修得者クラス) 試験を作る

②大学院教育: Intercultural Understanding Pedagogy

### 3. その他の活動

#### 【学内委員】

- ・情報環境機構教育用コンピュータシステム運用委員会

#### 【社会活動】

- ・Manuscript reviewer for the *International Journal of Intercultural Relations*
- ・Award for Excellence in Teaching, The Japan Association of College English Teachers (2011)

ティム スチュワート Tim Stewart (准教授)

#### 1. 研究業績

##### 【学会発表】

- ・Stewart, T., 2011.7. "Teaching speaking to beginners in Japan: Identifying common problems," Workshop—JALT College and University Educators Conference, Tokyo, Japan.
- ・Stewart, T., 2012.1. "Spiral sequencing for an academic speaking and writing course," Workshop—Thailand TESOL, Bangkok, Thailand.
- ・Dellicarpini, M., Stewart, T., *et al.* 2012.3. "Getting published in TESOL Journal for new writers," International TESOL Association 2012 convention, Philadelphia, USA.
- ・Stewart, T., 2012.3. "Publishing teachers' research in TESOL: Advice for novice writers," *Breakfast with TESOL's Best* invited session. International TESOL Association 2012 convention, Philadelphia, USA.

#### 2. 教育活動

##### 【学内】

①全学共通教育、②学部教育、③大学院教育

英語ⅠA

英語ⅠB

英語ⅡA

英語ⅡB

英語ⅡA 単位未修得者クラス

英語ⅡB 単位未修得者クラス

CALL (英語ⅡAB 単位未修得者クラス) 試験を作る

③大学院教育

外国語教育授業研究論 1・2

##### 【学外】

- ・2011.4-2012.3. Editor of the *TESOL Journal* section, Communities of Participation in TESOL
- ・2011.4-2012.3. Manuscript reviewer for the JALT publication *The Language Teacher*

### 3. その他の活動

#### 【学内委員】

- ・2011.4-2012.3. 国際交流委員会委員の活動

- ・ 2011.6-2012.3. 国際交流の活動 *Raku-Yu* Public Relations Booklet Senior Editor

#### 【社会活動】

(その他)

- ・ 2011.9. Award for excellence in teaching. Japan Association of College English Teachers (JACET), Fukuoka, Japan.

### 桂山 康司 (准教授)

#### 1. 研究業績

##### 【著書】

(執筆協力)

- ・ 田地野彰 (編著)、金丸敏幸他 (著) 2012.3 『TOEFL ITP® テスト 公式テスト問題&学習ガイド』 研究社

##### 【学会発表】

- ・ 桂山康司 2011.12 「“Hurrahing in Harvest” について」 日本ホプキンス協会関西西部会第 376 回例会、キャンパスプラザ京都

#### 2. 教育活動

##### 【学内】

- ①全学共通教育：「英語ⅠA・B」「英語ⅡA・B」「イギリス詩入門 (ポケット・ゼミ)」
- ②学部教育：「西欧近現代表象文化論ⅣB」「西欧近現代表象文化論演習ⅣA・B」「国際文明学入門 B」「『ハムレット』を朗読する (総人ゼミ)」(以上、総合人間学部)「英語学英文学 (講読)」「アメリカ文学 (講読)」(以上、文学部)
- ③大学院教育：「共生文明学Ⅰ・Ⅱ」「イギリス近現代文化論 2B」「西欧文化論演習 2A・B」(以上、人間・環境学研究科、博士前期課程)「共生文明学特別研究Ⅰ、Ⅱ」「歴史文化社会論特別セミナー」(以上、人間・環境学研究科、博士後期課程)

##### 【学外】

- ・ 京都府立大学 英語 B
- ・ 神戸市立外国語大学 英米文学特殊講義・英米文学研究 1
- ・ 播磨高等学校 (高大連携プロジェクト)

#### 3. その他の活動

##### 【学内委員】

- ・ 全学共通教育システム委員会外国語教育専門委員会委員
- ・ 外国語教育専門委員会英語部会委員
- ・ 全学共通教育システム委員会 B 群科目委員会委員
- ・ 建築委員会委員 (人間・環境学研究科)
- ・ 人間・環境学フォーラム実施委員会委員長 (人間・環境学研究科)
- ・ 国立七大学外国語教育連絡協議会

##### 【社会活動】

- ・ 日本英文学会大会準備委員
- ・ 日本英文学会関西支部編集委員
- ・ 日本ミルトン協会企画委員
- ・ 日本ホプキンス協会関西西部会運営委員
- ・ 京大英文学会アルビオン賞選考委員会委員
- ・ 岸和田市青少年指導員 (2011-2012 年度)
- ・ 岸和田市立八木北小学校 PTA 実行委員会顧問

- ・岸和田市全八木地区連合子ども会指導者連絡協議会副会長

**【講演】**

- ・桂山康司 2011.10 「外国語教育と文化・教養—『京大学術語彙集』の活用を例として」平成23年度国立七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム、九州大学